平成 15 年度

愛知県埋蔵文化財センター

年報

2004

（財）愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター

目　　次

Ⅰ．平成15年度事業概要 …… 1

調査の理由と工程 …… 2
平成15年度　調査遺跡位置図 …… 4

Ⅱ．遺跡調査の概要 …… 7

一宮市　南木戸遺跡 …… 8
稲沢市ほか　一色青海遺跡 …… 9
清洲町ほか　朝日遺跡 …… 14
瀬戸市　瓶子窯跡 …… 16
惣作・鐘場遺跡 …… 18
万徳峠窯跡 …… 22
川合Ｄ窯跡 …… 24
長久手町　Ⅰ-Ｇ-２号窯跡 …… 25
日進市　西田面遺跡 …… 26
扶桑町　高木遺跡 …… 27
美浜町　細田古窯群 …… 28
岡崎市　小針遺跡 …… 29
安城市　上橋下遺跡 …… 31

Ⅲ．刊行報告書抄録 …… 33

Ⅳ．埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会の記録 …… 53

Ⅴ．発掘調査技術等研修会の記録 …… 59

Ⅵ．埋蔵文化財センターの活動 …… 61

現地説明会等 …… 62
資料の貸出・提供 …… 64
研究会（原始、古墳・古代、中・近世の各部会）の活動報告 …… 66
報告書作成のための遺物等の指導・発掘調査現場における遺構・遺物等の指導 …… 70
ホームページ …… 71
平成15年度愛知県埋蔵文化財センター組織一覧 …… 75

Ⅰ. 平成 15 年度事業概要

調査の理由と工程

1．発掘調査

調査委託者		事業名	遺跡名	面積(m²)	調査時期	調査担当者
国土交通省	愛知国道	東海環状自動車道建設	瓶子窯跡	1,300	平成15年４月～６月	藤岡・武部
日本道路公団		近畿自動車道清洲JCT建設	朝日遺跡	582	平成15年４月～７月	石黒・池本・蔭山
名古屋高速道路公社		県道高速清洲一宮線建設	朝日遺跡	572	平成15年４月～７月	石黒・池本・蔭山
企業庁	尾張水道	愛知県水道用水供給事業	南木戸遺跡	195	平成15年４月～５月	石黒・樋上・早野
県建設部	道路建設課	瀬戸設楽線改築	惣作･鐘場遺跡	4,850	平成15年７月･平成15年11月～平成16年３月	藤岡・酒井・鵜飼・武部
			万徳峠窯跡	1,000	平成15年８月～11月	藤岡・酒井・鵜飼
			川合Ｄ窯跡	250	平成15年11月～12月	藤岡・酒井・鵜飼
		岩崎名古屋線改築	西田面遺跡	1,000	平成16年１月～２月	藤岡・永井(宏)
		半田南知多線整備	細田古窯群	900	平成15年４月～７月	小嶋・松田
		名古屋岡崎線改良	小針遺跡	2,100	平成15年８月～12月	小嶋・松田
		草井羽黒線改築	高木遺跡	2,700	平成15年４月～11月	藤岡・武部
	下水道課	日光川上流流域下水道事業	一色青海遺跡	7,124	平成15年６月～平成16年３月	石黒・樋上・早野
	河川課	鹿乗川改良	上橋下遺跡	600	平成15年12月～平成16年３月	小嶋・松田
	公園緑地課	公園緑地整備事業	I-G-２号窯跡	350	平成15年４月～７月	藤岡・酒井・鵜飼
		12事業	13遺跡	23,523		

2．整理・報告書編集

	調査委託者		調査の理由	遺跡名	面積(m²)	調査年度
整理	国土交通省	愛知国道	東海環状自動車道建設	鶯窯跡	1,600	平成10･11･13年度
	日本道路公団		第２東海自動車道建設	水入遺跡	67,850	平成10･11年度
			近畿自動車道清洲JCT建設	朝日遺跡	3,064	平成13･14･15年度
	名古屋高速道路公社		高速一宮清洲線建設	朝日遺跡	6,915	平成10年度～
	国立名古屋病院	施設管理課	看護婦養成所大型化整備	名古屋城三の丸遺跡	1,100	平成14年度
	県建設部	都市整備課	西市場助七線建設	清洲城下町遺跡	2,700	平成10年度
整理・報告	国土交通省	愛知国道	東海環状自動車道建設	長谷口遺跡	2,525	平成12･14年度
		名四国道	国道153号線足助BP建設	城山城跡	4,400	平成12･13年度
	日本道路公団		第２東海自動車道建設	荒山古墳群	1,200	平成14年度
			東海環状自動車道建設	宇トゲ窯跡	400	平成13年度
				中洞窯跡	1,200	平成13年度
	都市整備公団		アーバニア志賀公園住宅建設	志賀公園遺跡	8,930	平成12年度
	県建設部	道路建設課	国道248号線建設	吉野遺跡	3,730	平成12･13･14年度
			日進瀬戸線建設	金萩遺跡	2,500	平成12年度
			須成七宝線建設	上中・西屋敷遺跡	4,600	平成12年度
			知多横断道路建設	四池Ａ古窯	600	平成13年度
				16遺跡		

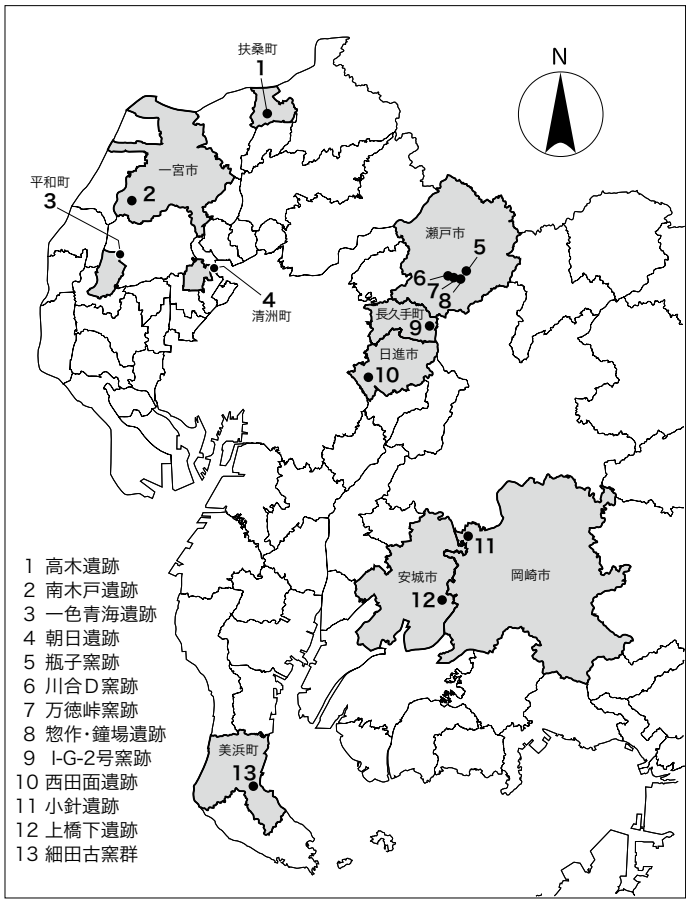
3．平成 15 年度刊行物

埋蔵文化財調査報告書 (計９冊)

第 100 集　本川遺跡
第 107 集　猫島遺跡
第 110 集　権現山遺跡
第 111 集　木戸城遺跡・古新田遺跡
第 112 集　八王子遺跡
第 114 集　石堂野Ｂ遺跡
第 116 集　凧山屋敷遺跡
第 117 集　烏帽子遺跡Ⅱ
第 118 集　巡間Ｅ窯跡

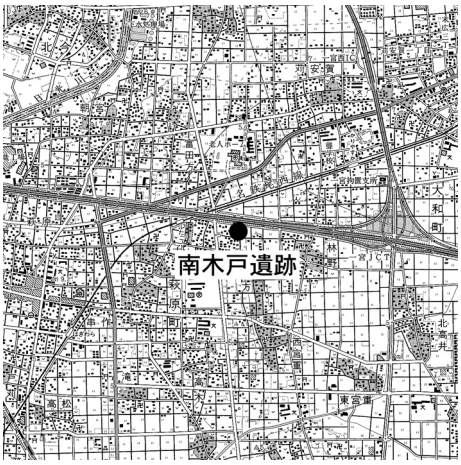
平成 15 年度　愛知県埋蔵文化財センター　年報
研究紀要　第５号

平成15年度　調査遺跡位置図

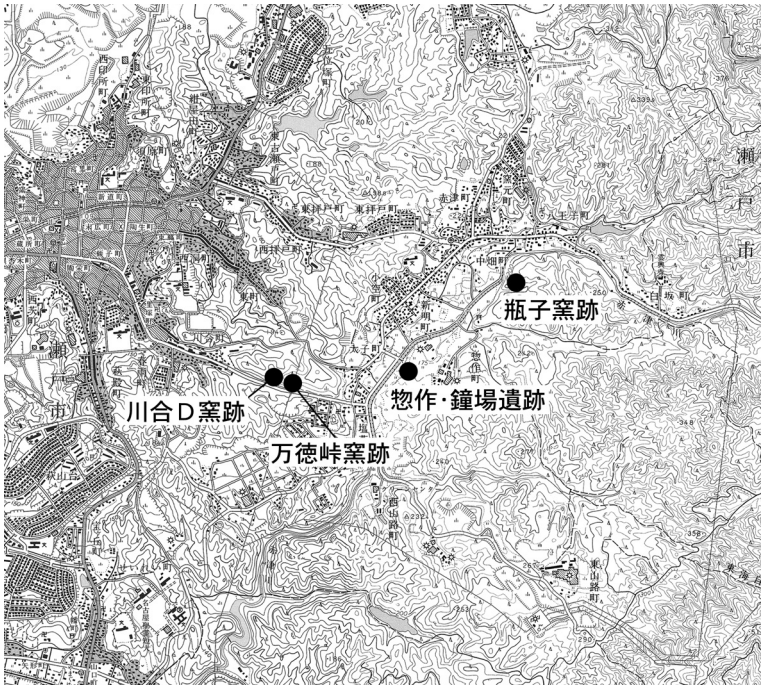




国土地理院 1/2.5 万地形図「犬山」



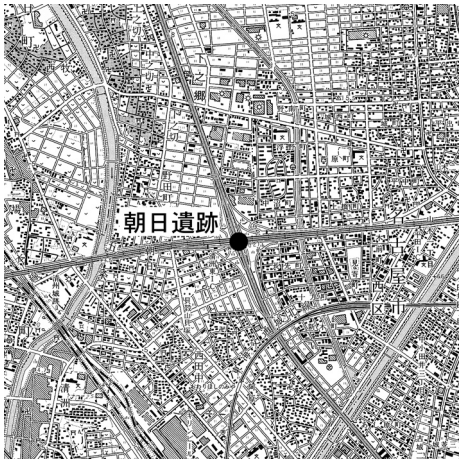
国土地理院 1/2.5 万地形図「一宮」



国土地理院 1/2.5 万地形図「瀬戸・猿投山」



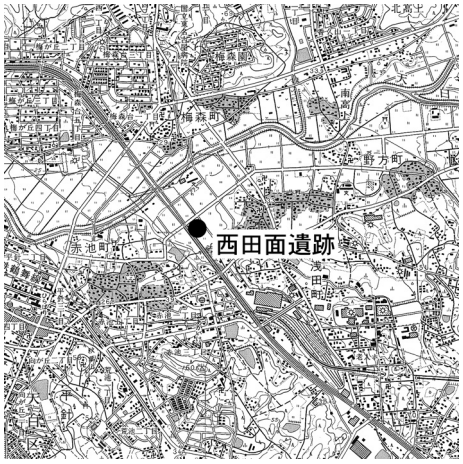
国土地理院 1/2.5 万地形図「清洲」



国土地理院 1/2.5 万地形図「清洲」



国土地理院 1/2.5 万地形図「平針」



国土地理院 1/2.5 万地形図「平針」



国土地理院 1/2.5 万地形図「岡崎」



国土地理院 1/2.5 万地形図「安城」



国土地理院 1/2.5 万地形図「河和」

※ 地形図は 50%縮小されています。

II. 遺跡調査の概要

南木戸（みなみきど）遺跡

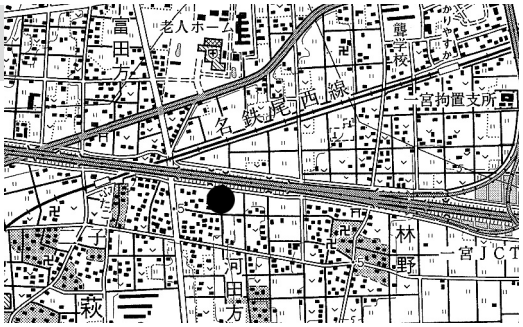
所　在　地　一宮市萩原町河田方南木戸

調 査 理 由　愛知県水道用水供給事業

調 査 期 間　平成 15 年４～５月

調 査 面 積　195 ㎡

担　当　者　石黒立人・樋上　昇・早野浩二



調査地点（1/2.5 万「一宮」）

調査の経過　本遺跡は愛知県水道用水供給事業にともなう事前調査として、愛知県企業庁ならびに尾張水道事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成15年4月から5月にかけて実施した。調査面積は195㎡である。

立地と環境　南木戸遺跡は一宮市南西部の日光川左岸の微高地上に立地し、標高は現地表面で約5ｍを測る。

調査の概要　昭和37年には名神高速道路の建設にともない、名鉄尾西線と交叉する地点の東約110～120ｍにある河田方高架橋の敷設工事において、古墳前期に属する多量の土器・木製品が出土し、一宮市教育委員会が遺物の採取を行った。

今回の調査では、名神高速道路南側の側道にあたる市道256号線の下に水道管を埋設するための事前調査として、幅2ｍ、全長65ｍの調査区を設定した。その結果、東西幅がおよそ40ｍほどの微高地を確認し、廻間Ⅰ～Ⅱ式期に属する竪穴住居・溝・土坑を検出した。（樋上　昇）


調査区全景（東から）


調査区東半部（東から）


ＳＢ 03 全景（東から）


ＳＫ 182 土器出土状況

一色青海遺跡（いっしきあおかい）

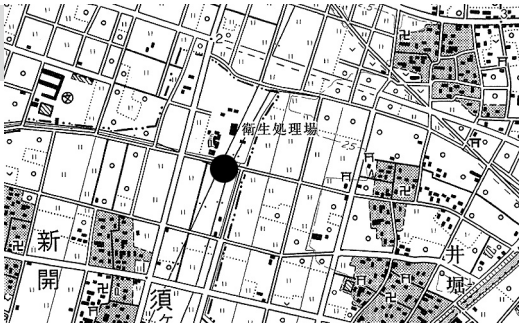
所　在　地　中島郡平和町須ヶ谷

調 査 理 由　日光川上流流域下水道事業

調 査 期 間　平成15年６月～平成16年３月

調 査 面 積　7,124 ㎡

担　当　者　石黒立人・樋上　昇・早野浩二



調査地点（1/2.5 万「清洲」）

調査の経過　本遺跡の発掘調査は日光川上流流域下水道事業にともなう事前調査として、愛知県建設部下水道課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成15年6月から平成16年3月にかけて実施した。調査面積は7,124㎡である。

立地と環境　一色青海遺跡は濃尾平野の南西部に位置し、縄文海進期に形成された第二浜堤列と呼ばれる東西にのびる微高地の西端に立地している。標高は現地表面で約1.5ｍを測る。

調査の概要　すでに当センターが平成２年度から平成８年度にかけて、合計23,500㎡の発掘調査を行っており、弥生時代中期後葉と鎌倉～戦国時代の２時期にわたる遺跡であることがあきらかとなっている。今回の調査区（03Ａ・Ｂ区）は弥生時代の集落のほぼ中央に位置している。

弥生時代　弥生時代中期後葉の遺構としては、掘立柱建物跡４棟以上、竪穴住居跡約100棟、方形周溝墓５基、土坑約1000基、溝約20条を数える。

掘立柱建物跡SB17は梁間１間（５m）、桁行６間（16.25m）の大型建物である。柱掘形は1.5× １mの隅丸方形を呈し､深さは現況で約１ｍを測る。柱はすべて抜き取られており、礎板のみが遺存していた。竪穴住居跡SB11を切って築造され、竪穴住居跡SB35に切られており、同一場所での建て替えの痕跡は認められない。SB17の南東に位置する掘立柱建物跡SB77は梁間１間、桁行３間で、独立棟持柱を有している。

この掘立柱建物跡 SB17・77 の周辺には長辺が 10 m前後の大型竪穴住居跡が集中している。これらの建物群の主軸はいずれもほぼ同一の方位をとっており、かつ竪穴住居跡はほぼ同じ位置で複数の建て替えの痕跡が認められる。うち、竪穴住居跡SB55・57 の炉には、扁平な川原石が縦に埋め込まれていた。また、SB99 では土器埋設炉を検出した。前者は伊勢中部あるいは西三河から関東地域に、後者は長野県域に一般的な炉の形態だが、尾張ではこれまで例がなく、いずれもその系譜が注目される。

竪穴住居跡の多くには炭化材が遺存していた。しかし、床面直上からは完形の土器が遺存しておらず、多くの土器片が炭化材より上の埋土中から出土することから、失火ではなく、竪穴住居の廃棄にともなう意図的な焼却である可能性が高い。

方形周溝墓群は調査区の東端部で５基確認した。うち、全形がわかるのはSZ01 のみで、墳丘の一辺は約10ｍを測る。周溝内からは完形の細頸壺数点が出土している。

鎌倉～室町時代　鎌倉～戦国時代の遺構としては、大型の方形土坑が約150基と溝約40条がある。生活の痕跡はなく、墓域として利用されたと考えられる。（樋上　昇）

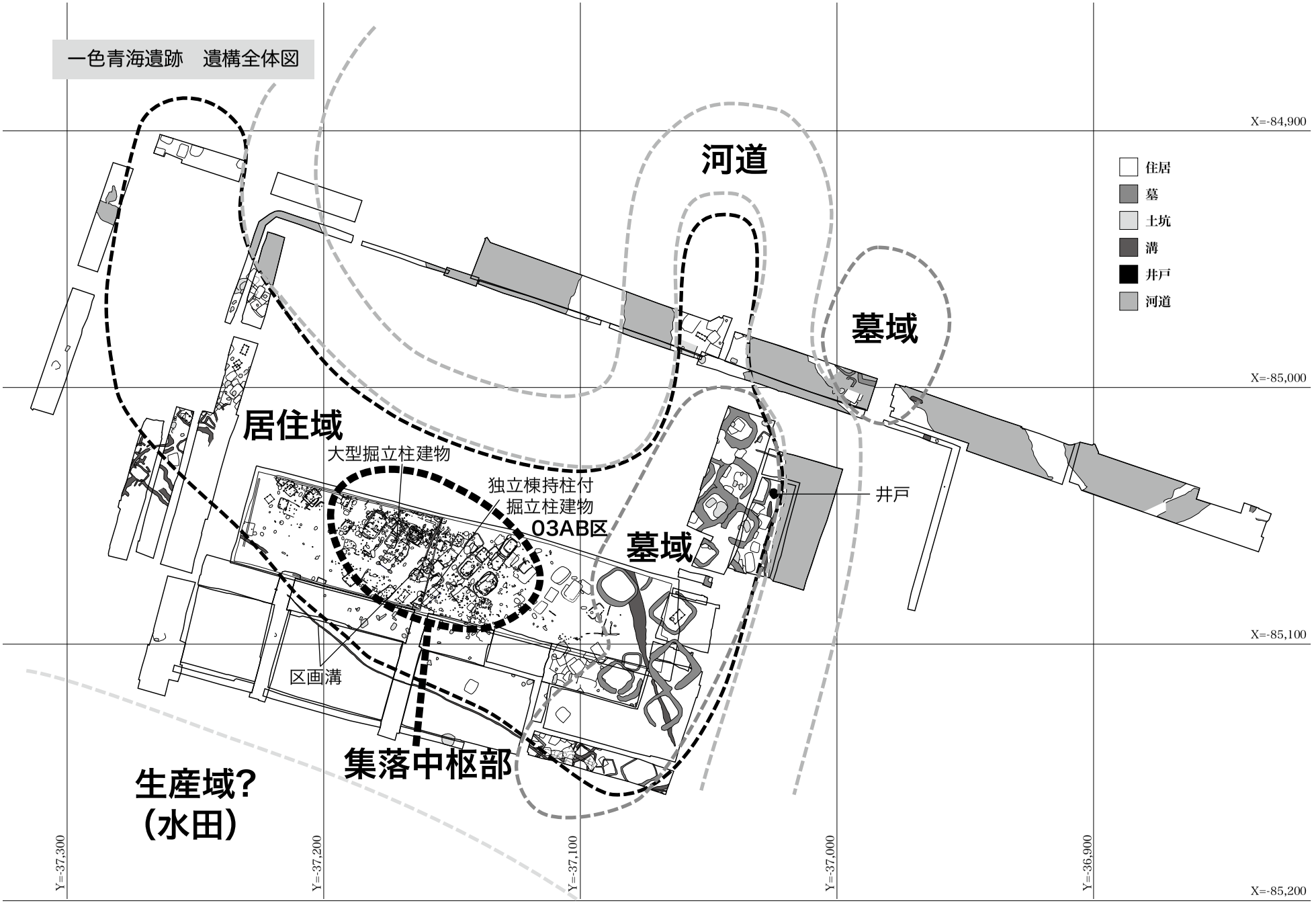


図1　一色青海遺跡弥生時代遺構全体図（1：2,000）

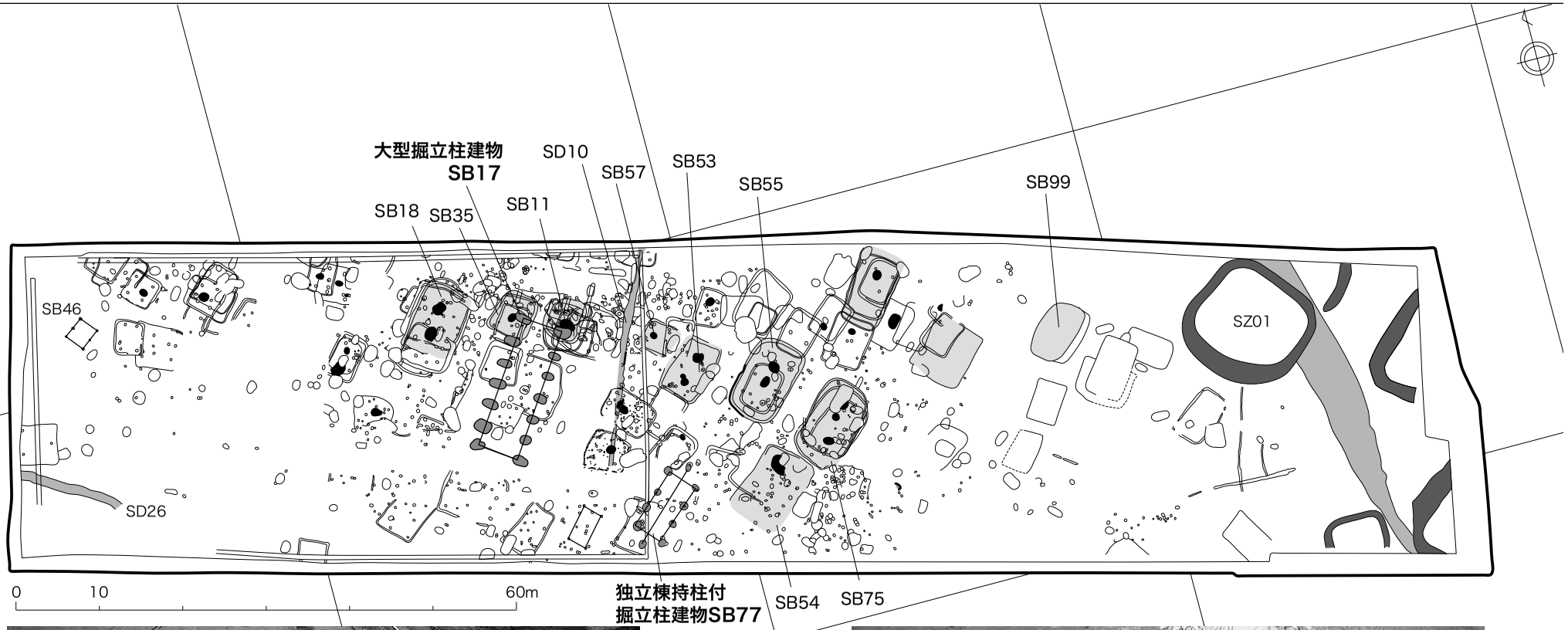
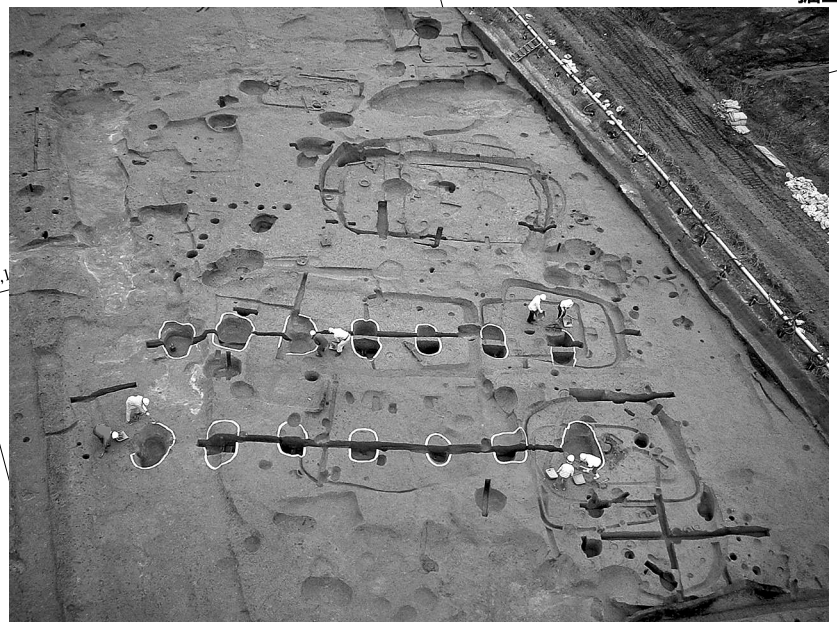


図2　03AB区弥生時代遺構全体図（1：700）



大型掘立柱建物跡SB17全景



方形周溝墓SZ01全景

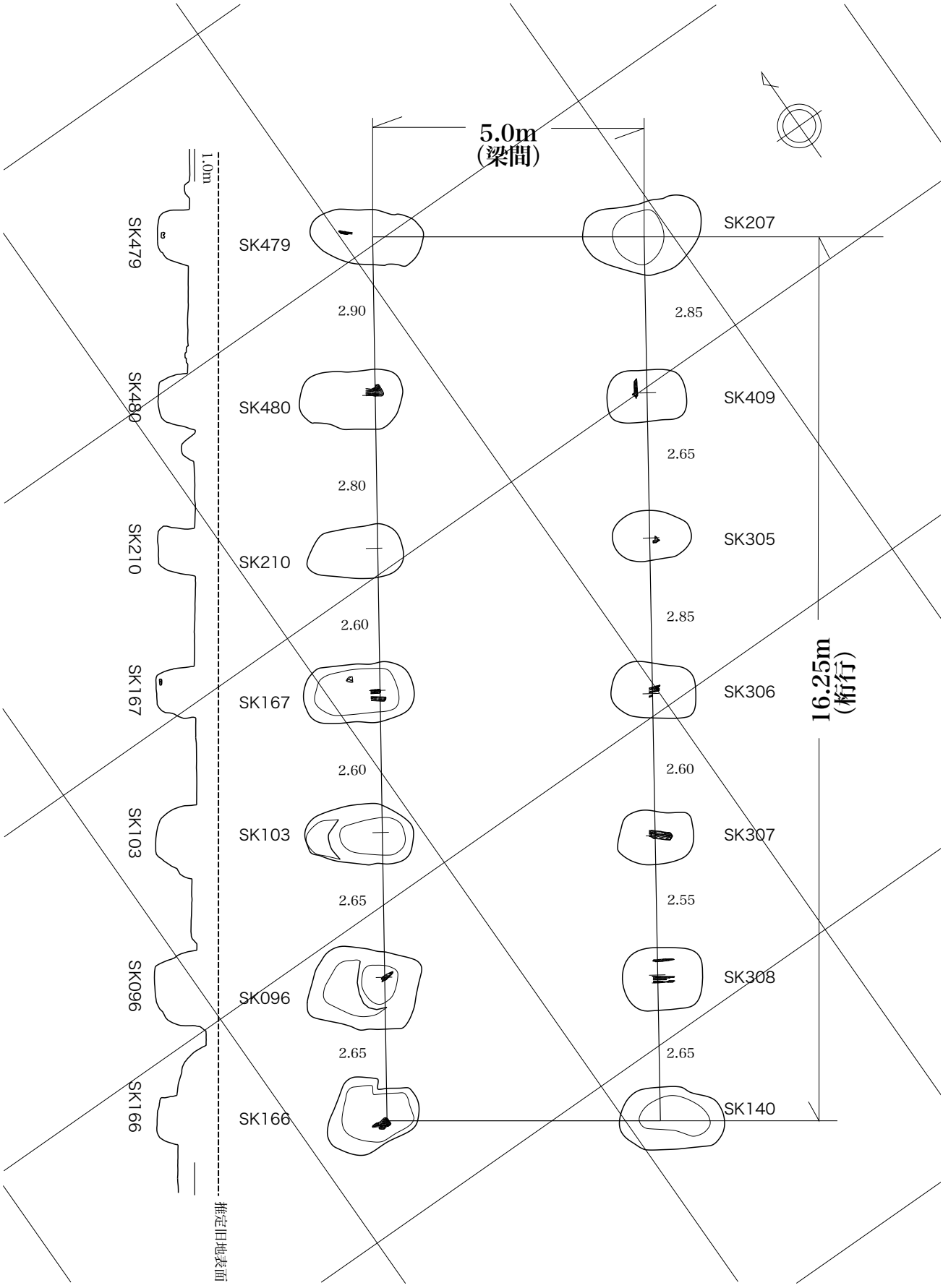
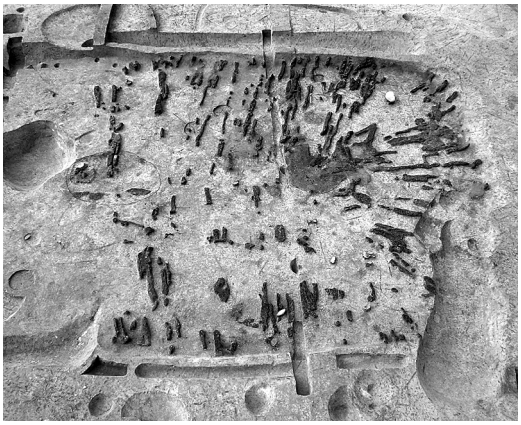
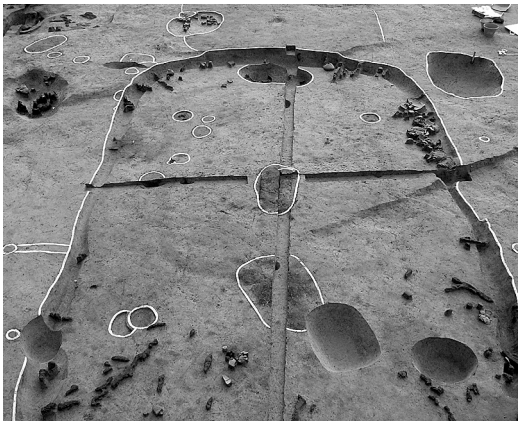


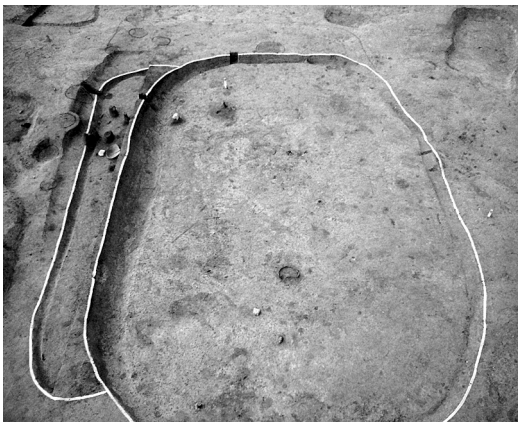
図３　大型掘立柱建物跡SB17（１：100）



大型竪穴住居跡SB18炭化材遺存状況



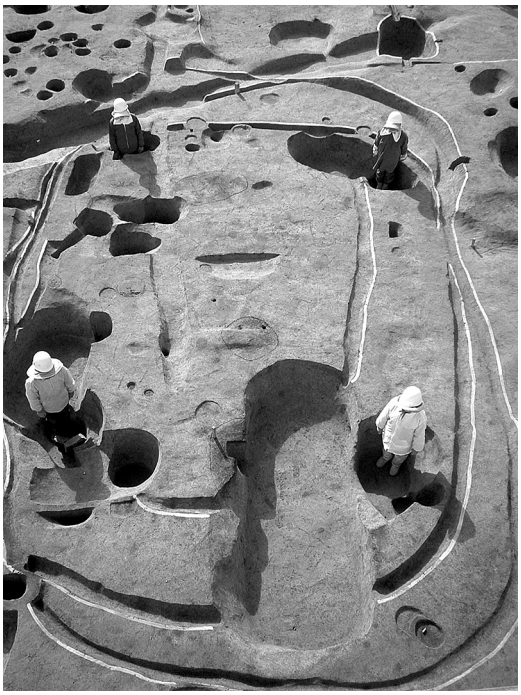
大型竪穴住居跡SB55全景（中央上寄りが立石を埋設した炉）



竪穴住居跡SB99全景（中央が土器埋設炉）



竪穴住居跡SB57全景（中央やや右寄りが立石を埋設した炉）



大型竪穴住居跡SB75全景



独立棟持柱建物跡SB77全景

朝日（あさひ）遺跡

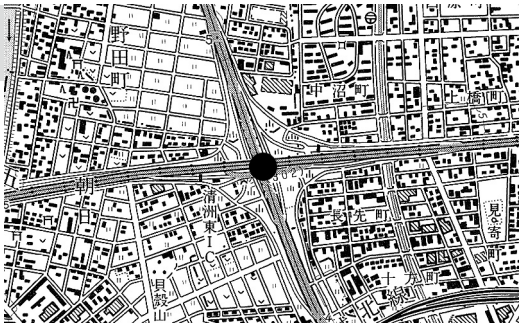
所　在　地　西春日井郡清洲町・新川町・春日町・名古屋市西区

調査理由　近畿自動車道清洲 JCT 建設
県道高速清洲一宮線建設

調査期間　平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月

調査面積　1,154 ㎡

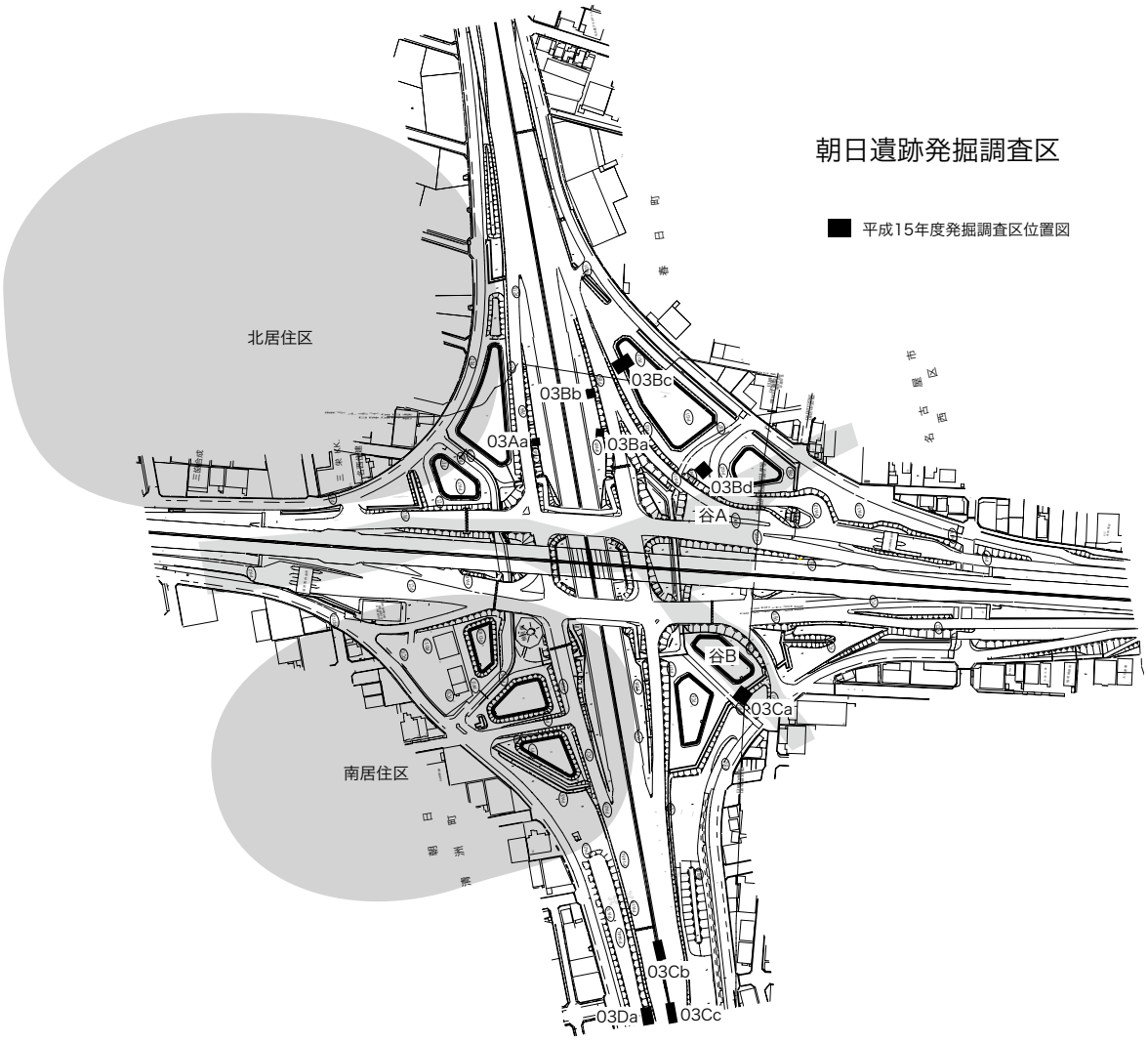
担　当　者　石黒立人・池本正明・蔭山誠一



調査地点（1/2.5 万「清洲」）

調査の経過　名岐道路建設に伴い、朝日遺跡にかかる部分について事前調査を行う必要があった。そこで平成10年度から日本道路公団・名古屋高速道路公社より愛知県教育委員会を通して委託された当埋蔵文化財センターにおいて発掘調査を実施している。今年度の調査は平成10年度年報における朝日遺跡「調査区の表記について」に準じてA区に03Aa 区の１ケ所、B区に03Ba 区～ 03Bd 区の４ケ所、C区に03Ca 区～ 03Cc の３ケ所、D区に03Da 区の１ケ所の併せて９ケ所の調査区を設定し、1,154 ㎡を調査した。調査期間は平成15年４月から平成16年３月である。

立地と環境　朝日遺跡は西春日井郡清洲町を中心に同春日町、新川町、名古屋市西区に広がる東海地方屈指の弥生時代集落で、現在では五条川左岸の後背湿地にあたる地域となっている。



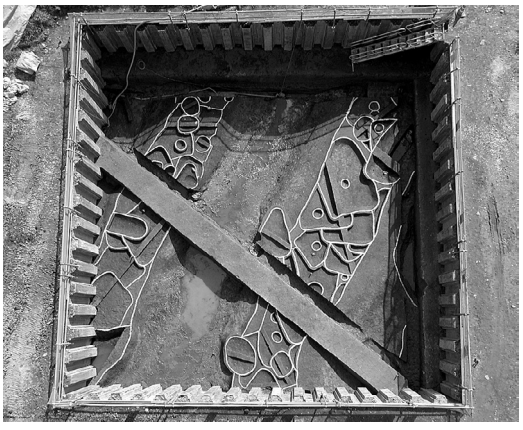
平成 15 年度発掘調査区位置図

調査の概要　03Aa 区と03Ba 区・03Bb 区は弥生時代中期中葉と弥生時代後期に「北居住区」東の環濠帯とされてきた部分にあたる。03Aa 区では弥生時代中期中葉～後葉の周溝をほぼ重複させている方形周溝墓を２基と土坑10基、中世の方形土坑３基を検出した。03Ba 区では弥生時代中期後葉の方形周溝墓１基、弥生時代後期の方形周溝墓１基、弥生時代後期～古墳時代前期の小区画水田跡９筆、弥生時代中期の竪穴住居14棟、土坑約200基、中世の方形土坑１基を検出した。弥生時代中期中葉から後期にかけて連綿と方形周溝墓が作られること、弥生時代後期の周溝が埋まった後に水田が形成されることが明らかになった。03Bb 区では弥生時代中期中葉～後葉の方形周溝墓の周溝１条とほぼ重複する弥生時代中期中葉と弥生時代後期の環濠２条、弥生時代中期前葉～中葉の竪穴住居10棟と土坑35基を確認した。この環濠は内側から４番目の環濠に対応し、弥生時代中期中葉の環濠最下部から逆茂木と思われる丸木が出土した。

03Bc 区と03Bd 区は「北居住区」の環濠帯を挟んで弥生時代中期の墓域が広がる部分で、03Bc 区では弥生時代中期中葉～後葉の方形周溝墓４基、弥生時代中期前葉～中葉の竪穴住居20棟、土坑約100基、中世の方形土坑１基等を検出した。方形周溝墓は竪穴住居等より新しいものと古いものがあり、遺跡の変遷は複雑な過程を経た可能性がある。03Bd 区では「谷Ａ」に併行して流れる弥生時代中期前葉～中葉の溝３条と古墳時代初頭の溝１条、弥生時代中期中葉～後葉の方形周溝墓の周溝７条（５基以上分）、弥生時代中期前葉の竪穴住居38棟、土坑163基を検出した。「谷Ａ」と併行する弥生時代中期の溝はこれまで２条の溝が併行してはしる可能性が指摘されてきたが、微妙に流路が交差し、その他の遺構との変遷過程が存在することから、一時期には１条の溝があったものと思われる。

03Ca 区は「南居住区」から東へ外に出た部分で、弥生時代中期中葉～中期後葉の土坑とそれらより新しい「谷Ｂ」と考えられる自然流路が検出され、古墳時代前期の廻間Ⅰ式期前後の流路と松河戸Ⅱ式期前後の流路を確認した。どちらの流路からも多量の自然流木と木製品、木材加工の痕跡と思われる木屑などが出土した。また、その流路の上層では中世の方形土坑や戦国時代～近世の水田遺構を検出した。

03Cb 区では朝日遺跡の南限と考えられる弥生時代中期後葉の溝を１条検出した。03Cb 区南側と03Cc 区では湿地性の堆積が確認され、明確な遺構はなかった。　（蔭山誠一）



Bd 区２面全景



Ca 区５面谷Ｂ

瓶子（へいじ）窯跡

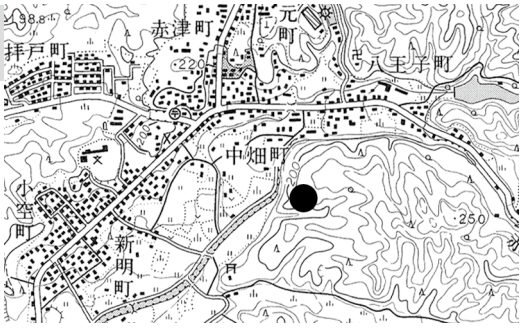
所　在　地　瀬戸市凧山町

調 査 理 由　東海環状自動車道建設

調 査 期 間　平成 15 年４月～６月

調 査 面 積　1,300 ㎡

担　当　者　藤岡幹根・武部真木



調査地点（1/2.5 万「猿投山」）

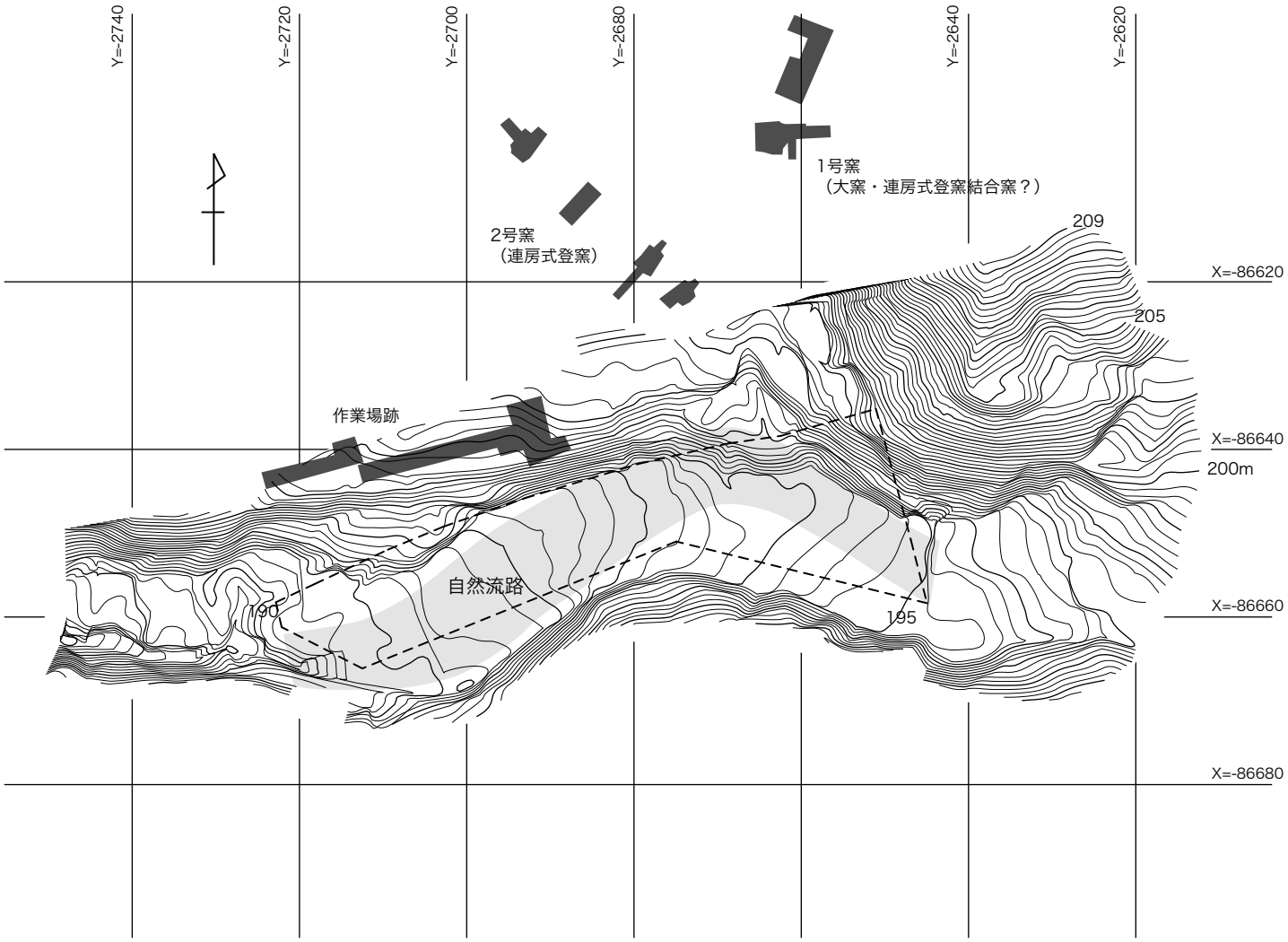
調査の経過　調査は東海環状自動車道建設に伴う事前調査として、国土交通省愛知国道事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。瓶子窯跡は矢田川の支流である赤津川左岸の丘陵地に立地する周知の窯跡であり、瀬戸市埋蔵文化財センターによって平成10･11年度に窯体と周辺の試掘調査が行われた結果、17世紀半ば～後葉にかけて操業した連房式登窯と大窯・連房式登窯結合窯の計2基の窯体、および作業場とみられる平坦面などが確認されている。

調査の概要　今回の調査地点は、窯体からやや離れた灰原（物原）末端と想定される位置にあたり、現況は山林と湿地状を呈する谷であった。近世段階の谷底検出面は窯体焚口の最も低い部分からは約13m、作業場とされる平坦部より約1.5mの比高差を測る。東西方向に伸びる谷地形であり西側で赤津川に流れ込む。谷の幅は広いところで約8m あり、調査区は窯体方向から崩落した灰原の堆積する緩斜面と、谷底の自然流路の大きく2つに分けられる。

灰原部分は盗掘坑とみられる大小の撹乱が夥しく、操業期に関わる堆積状況を捉えることは困難な状況であった。灰原に含まれる大量の製品と窯道具には、茶入、丸碗、天目茶碗、皿、擂鉢、花瓶、徳利、銭甕、匣鉢、トチ、エブタ、焼台、窯体の一部などがある。また、一部資料には鉄釉で書かれた文字がみられる。多くは3㎝角程度の製品破片に収まるように「あさ」「平」「大」など1～2文字である場合が多い。その他に匣鉢内部にも文字がみられる。これらには「色見」が含まれていると思われるが、意図が不明なものも多い。その他にロクロ成形の小型土師器皿が少量ではあるが、斜面上方で検出されている。

谷断面では表土・水田耕作土層が水平堆積し、その下は粗～細粒砂層、腐植質を多く含むシルト、粘土、泥炭層などの互層となり河川性の堆積がみられる。近世段階の自然流路の堆積層は、中央部分が急激な水流によって流出しているため、流路両端に分かれて残存する。ここからは夥しい破片とともに、完形に近い残存状況の良い製品も多く出土している。後者は茶入、擂鉢、銭甕など、地点によりそれぞれ集中する器種が偏る傾向が認められる場合があり、窯詰の方法あるいは製品選別に拘わる廃棄状況を示しているものと思われる。その他に当時の工人の使用したキセル2個体が出土している。

ま　と　め　調査は窯体から若干距離をおいた地点であったにも拘わらず、採取した製品と窯道具類は総量コンテナ800箱を超えている。操業当時に廃棄されその後流出した谷中央部分の堆積量を加えずとも、膨大な生産規模が窺われる。ここでは遺構は全く検出されなかったが、製品の他にも各種窯道具、工人の所持品など生産の状況や方法など生産内容の究明に有用な資料が多く含まれており、特に当該時期の窯業遺跡については、窯体以外にも周辺を広く含めた調査範囲設定の必要性を示すものとなった。（武部真木）



瓶子窯跡周辺現況測量図（1：800）（破線で示す部分が今回の調査区）



調査区全景



キセル出土状況



谷埋土中の遺物出土状況



内部に漆器碗の入った匣鉢

惣作（そうさく）・鐘場（かねば）遺跡

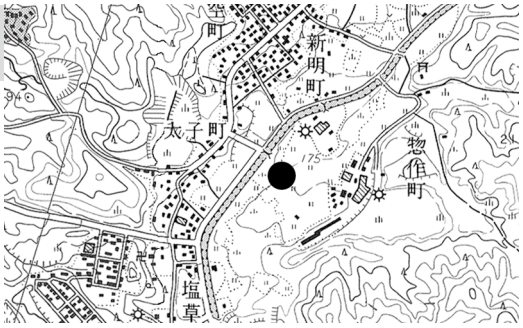
所　在　地　瀬戸市惣作町、鐘場町地内

調 査 理 由　県道瀬戸設楽線建設

調 査 期 間　平成 15 年 7 月～平成 16 年 3 月

調 査 面 積　4,850 ㎡

担　当　者　藤岡幹根・酒井俊彦・鵜飼雅弘・武部真木



調査地点（1/2.5 万「瀬戸・猿投山」）

調査の経過　調査は県道瀬戸設楽線建設のため愛知県建設部道路建設課から愛知県教育委員会を通じて委託を受け、平成12年度より実施している。平成12年度は遺跡範囲の南部、平成13・14年度は南部および北部の調査を行った。先年度までの延べ調査面積は15,700㎡である。これまでの調査によって後期旧石器時代末から近世までの遺構・遺物が検出された。今年度は、遺跡北部、中央と南部に各１調査区を設定して調査を実施した。

立地と環境　惣作・鐘場遺跡は瀬戸市東部の惣作町・鐘場町に所在し、矢田川支流である赤津川の左岸の標高170ｍ前後の２段よりなる洪積河岸段丘上に立地する。遺跡は赤津川と門前川を西限及び南限とし、北側と東側は山地を北限及び東限とする。遺跡範囲の北部は大目神社の所在する山塊からのびる尾根状の段丘上に位置し、惣作川を挟んで地形的に２つに別れる。周辺には南側に太子縄文遺跡、太子遺跡、北東部の山地部に大目神社古墳、巡間Ｅ窯跡、瓶子窯跡、凧山Ｃ窯跡、凧山窯跡、凧山屋敷遺跡、凧山Ａ窯跡、赤津川上流に長谷口遺跡、八王子遺跡がある。

調査の概要　今年度の調査区として、遺跡範囲の南部00A区と01B区の間に03A区、中央部に03B区、遺跡北部の02A区の東側に03C区を設定した。

03A区　北東から南西にのびる上位段丘面上に位置する。西側は下位段丘に移行する傾斜地、東側は門前川の河谷である。旧地形は段丘の最上部の平坦面を中心にした緩やかな傾斜地であるが、現状では階段状の耕作地となっている。

検出された遺構は古墳時代後期及び中世から近世にかけての時期に属する。古墳時代後期７世紀代の竪穴住居１棟が検出された。遺存状況は悪く、須恵器などの少量の遺物が出土した。中世については、調査区北部で現道に沿う位置に13世紀から15世紀の時期の溝１条を検出した。また、調査区南部の段丘端部で近世の溝２条、土坑１基を検出した。

03B区　上位段丘面の頂部を中心にした位置にある。東側は、門前川の河谷の傾斜地に面する。西側は下位段丘面に向かう緩やかな傾斜地である。調査区の西部は近年の耕地整理によって階段状に削平されており、基本層序として現耕作土下が段丘の基盤面となる。出土遺物としては、縄文時代から戦国時代の遺物が検出されたが、主な遺構の時期は、弥生時代後期、古墳時代後期、中世および戦国時代である。

弥生時代後期については、調査区北部に土坑２基を確認した。SK141からは比較的まとまって遺物が検出された。

古墳時代後期は、６世紀前半から７世紀後半までの時期に属す竪穴住居址14棟を確認した。近年の削平によって遺存状況が悪いものもあるが、全体に掘り方が深く、遺物の残存状況の良好な竪穴住居址がある。竈の遺存状況は悪く、構造が判明する良好なものは

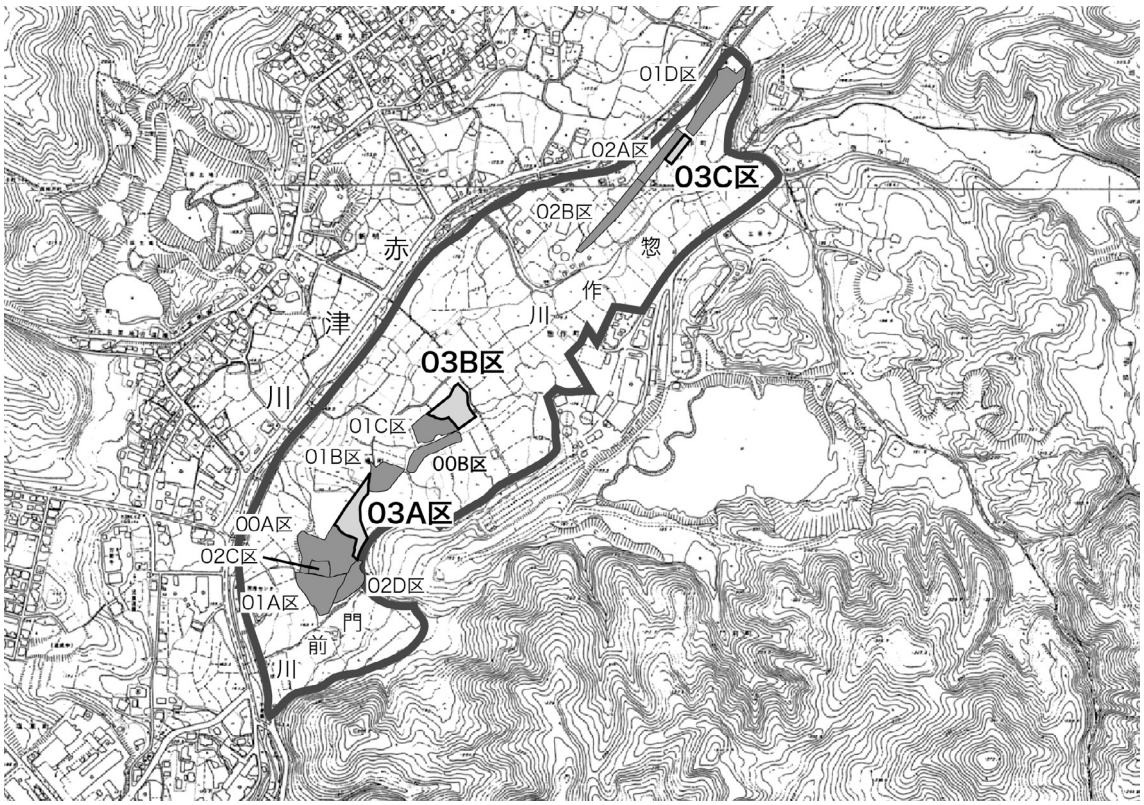
ない。焼土、粘土、炭化物が塊状に集中しているものが多い。竈の位置は、検出できたもので北辺あるいは北西辺にあるが、SB05は南東辺にある。SB01・09は竈の張り出しが認められる。柱穴は明瞭に認められるものは少ないが、床面に比較的深い掘り方をもつものがある。周溝は大部分の竪穴住居址で認められた。SB03は遺物の遺存状況が比較的良好で、北東辺の中央部分と東隅で完形に近い土師器甕の個体が床面上で検出された。また、竈付近及び床面直上より須恵器杯、土師器甕などが比較的多量に出土した。竪穴住居の時期的変遷については詳細は不明であるが、２～４棟が同時に存在したことが推定される。

中世については13世紀代の井戸 (SE01) が確認された。内部に方形の井戸枠の痕跡が検出された。調査区全体にこの時期の小土坑が検出され、掘立柱建物群が展開することが予想される。また、戦国時代の大型の土坑２基 (SX01・02) を検出した。平面形及び掘り方は不定形である。埋土はブロックの斑土で、埋め戻しが行われている。瀬戸窯産施釉陶器より16世紀前半の時期と考えられる。

調査区東隅の自然地形の落ち込み中の縄文時代中期の包含層より深鉢１個体が検出されたが、調査区内で自然地形のわかる範囲が狭いため今後の検討が必要である。

03C区　大目神社古墳の所在する丘陵より延びる段丘の上位段丘面及び下位段丘面に相当する。主な遺構としては古墳時代後期７世紀代の竪穴住居１棟を検出した。近年の耕作による削平が著しく遺存状況は悪い。少量の須恵器、土師器が出土した。

ま と め　昨年度までの調査では、古墳時代後期は７世紀代のみの竪穴住居が確認されてきた。今回の調査では６世紀代の時期の集落が検出され、遺跡全体では古墳時代全般に集落が展開することが確認された。今後は、同時期の周辺遺跡の動向を含めて集落の消長を検討する必要がある。　（酒井俊彦）



調査区位置図（１：10,000）



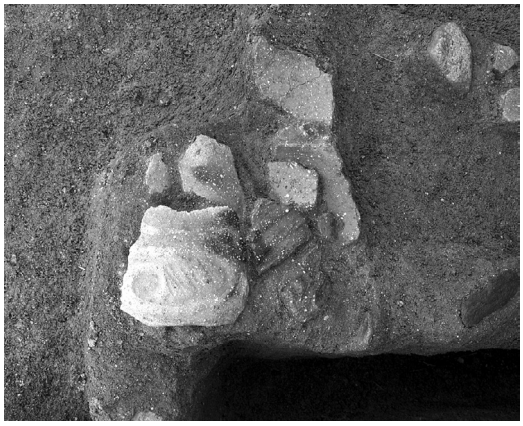
03Aa区全景（南より）



03B区全景（南西より）



03C 区全景（南西より）



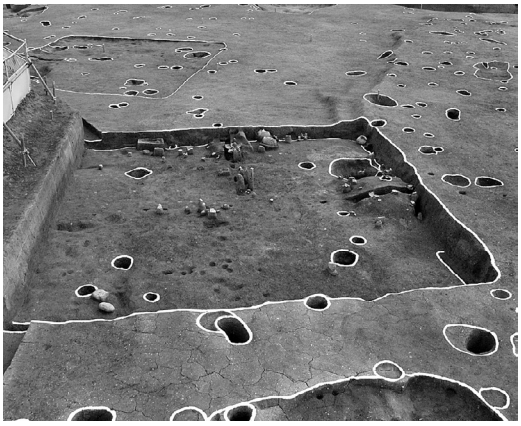
縄文土器出土状態（03B区）



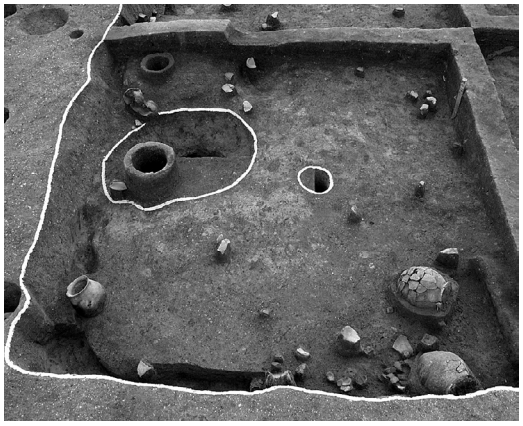
縄文土器出土自然地形（03B区）



古墳時代竪穴住居址群（03B区）



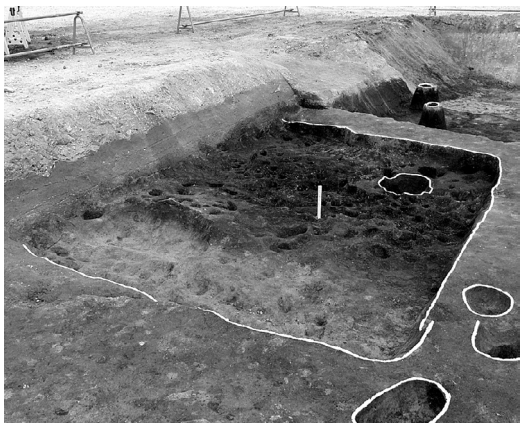
03B区SB03遺物出土状況（南西より）



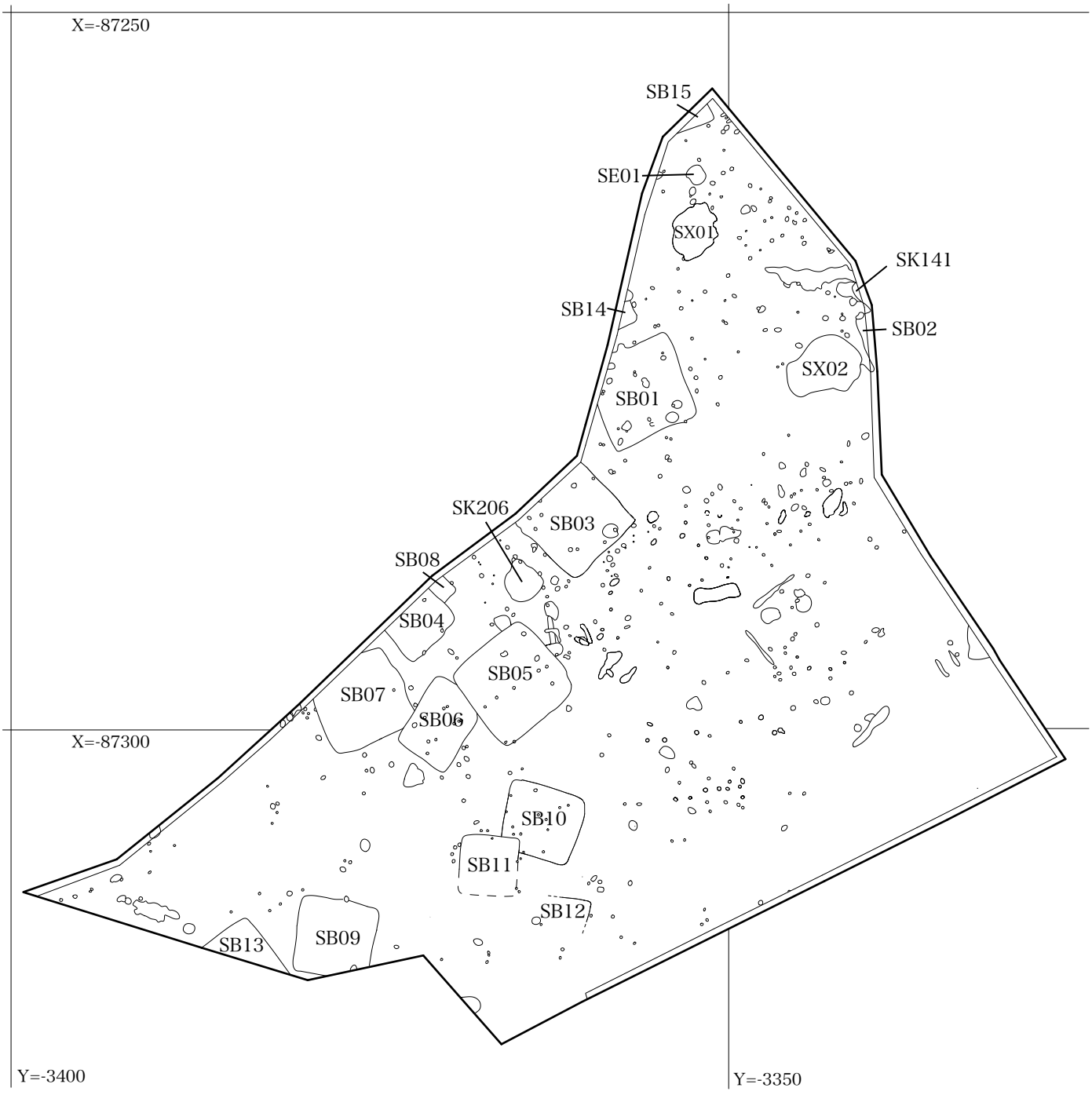
03B区SB03遺物出土状況（北東より）



03B区SB03土師器甕出土状況



03C区SB01完掘状況（東より）



03B区遺構平面図（1：400）

万徳峠窯跡（まんとくとうげ）

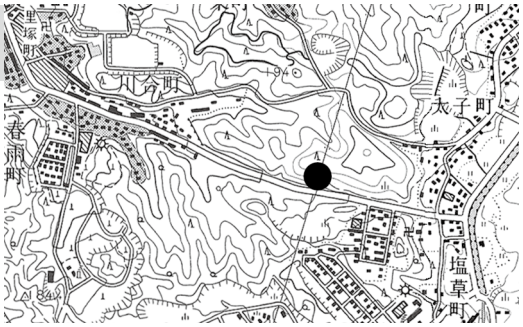
所　在　地　瀬戸市川合町地内

調 査 理 由　主要地方道瀬戸設楽線道路改良

調 査 期 間　平成 15 年 8 月～ 12 月

調 査 面 積　1,000 ㎡

担　当　者　藤岡幹根・酒井俊彦・鵜飼雅弘



調査地点（1/2.5 万「瀬戸・猿投山」）

調査の経過　万徳峠窯跡は、瀬戸市川合町地内に所在する。調査は主要地方道瀬戸設楽線道路改良工事に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課より委託を受け、平成15年8月から12月にかけて実施した。調査面積は1,000㎡である。

遺跡の立地　遺跡は菱野丘陵東部、市道塩草線万徳峠から西に展開する谷の北側標高約173ｍに位置する。周辺には川合Ｃ窯跡・川合Ｄ窯跡・川合Ｆ窯跡・太子Ａ窯跡など中世の山茶椀・施釉陶器の窯跡が集中する。また赤津川を隔てた対岸には、縄文時代から近世の複合遺跡である惣作・鐘場遺跡がある。

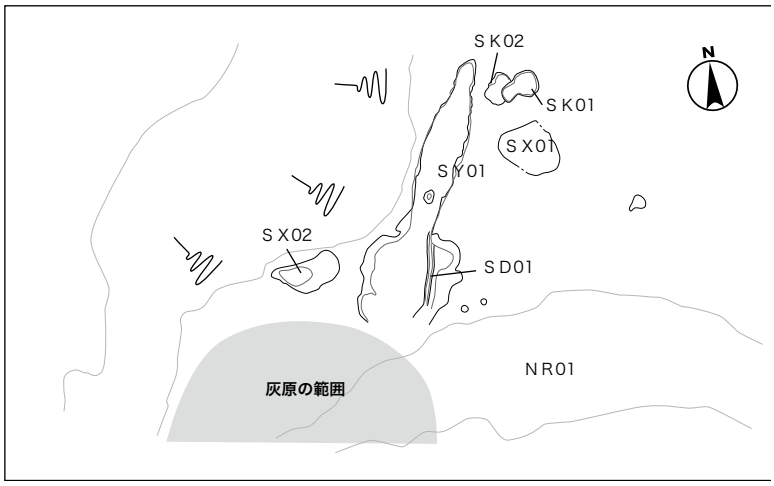
調査の概要　調査は盛土を除去し、窯体及び灰原の範囲を確認しながら行った。その結果分焔柱を有する窖窯１基（SY01）、および作業場と考えられる遺構を確認することができた。SY01は西に展開する谷（NR01）に向かって立地し、花崗岩の岩盤をくりぬいて構築されている。焚口から煙道までの全長は9.5ｍ、中軸線はN-24°Eを測る。平面形はすべて残り、焚口で幅1.1m、分焔柱付近で幅1.7ｍ、焼成室の最大幅は2.2mを測る。煙道部から焼成室まで22.5°と一定の傾斜を保ち、分焔柱から焚口までは19°とやや緩やかになる。

前庭部の最大幅は5.0ｍを測る。一部は撹乱を受けているものの、２面の整地層を確認した。また窯体に対し右側に排水溝（SD01）が伸びている。焚口の壁面は垂直に立ち上がり、床面直上では炭化物が認められた。分焔柱は高さ30㎝を残し、焼成室側では粘土による補修痕が残る。焼成室は全長6.1ｍ、煙道に近い部分では天井の一部が崩落した状態で検出された。さらに天井を取り除くと、最終焼成時の馬爪型焼台が遺物とともに現位置を留めていた。焼台の分布をみると、分焔柱に近い部分では山茶椀のものが多く、その上部では小皿が目立つ。また窯体の断ち割りの結果、床面は少なくとも１回以上の補修を受けていることを確認した。煙道の長さは1.8m、ダンパー付近の幅は0.9ｍを測る。煙道は先端部までを確認することができたが、ダンパーは流失していた。

灰原は前庭部からNR01に向かって広がり、灰釉四耳壺・山茶椀・小皿・窯道具などが出土した。NR01は全体に２次堆積の様相を示し、上層は盛土や撹乱の影響を受けている。しかし下層では灰釉四耳壺・瓶子・水注・山茶椀・小皿・窯道具などの遺物、焼台が出土した。

SY01周辺の遺構としては、作業場と考えられる遺構を２ヵ所確認することができた。そのうちSX02は、焼成された山茶椀を覆うように、粘土を敷き詰めた状態で検出された。またSK01・SK02では、炭化物・焼土を含むシルト層から山茶椀、水注の破片が出土した。

ま　と　め　SY01最終焼成時の出土遺物として、山茶椀・小皿・仏供具・入子が挙げられる。また灰原から出土した四耳壺・山茶椀が古瀬戸前期の様相を示すことから、この窯が山茶椀・古瀬戸を併焼していたことが明らかになった。今回の調査により、川合地区における中世窯業生産の実態を示す１資料が加わったと位置付けることができよう。　（鵜飼雅弘）



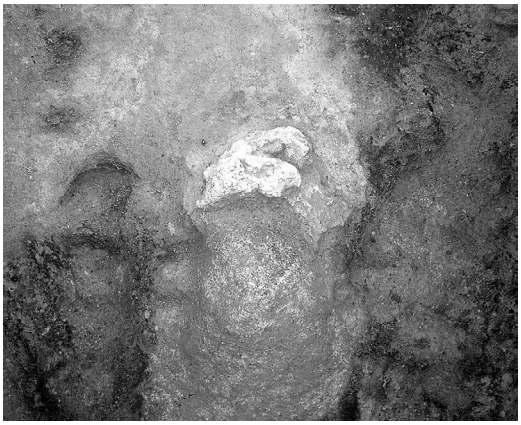
主要遺構配置図（1：400）



SY01完掘状況（南から）



SY01煙道（南から）



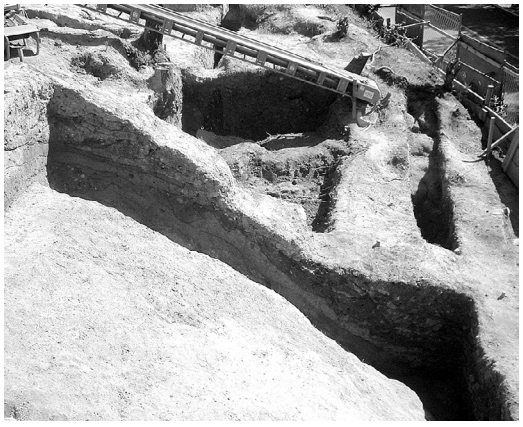
SY01分煙柱



SY01焼台出土状況



SX02粘土検出状況（西から）



灰原堆積状況（西から）

川合（かわい）D窯跡

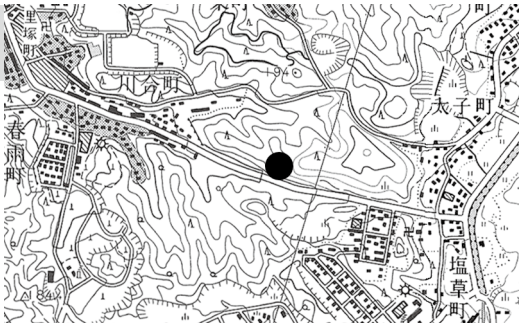
所　在　地　瀬戸市川合町地内

調 査 理 由　主要地方道瀬戸設楽線道路改良

調 査 期 間　平成 15 年 10 月～ 12 月

調 査 面 積　250 ㎡

担　当　者　藤岡幹根・酒井俊彦・鵜飼雅弘



調査地点（1/2.5 万「瀬戸・猿投山」）

調査の経過　川合D窯跡は、瀬戸市川合町地内に所在する。調査は主要地方道瀬戸設楽線道路改良工事に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課より委託を受け、平成15年10月から12月にかけて実施した。調査面積は250㎡である。

遺跡の立地　遺跡は菱野丘陵東部、市道塩草線万徳峠から西に展開する谷の北側標高約164ｍに位置する。周辺には万徳峠窯跡・川合Ｃ窯跡・川合Ｆ窯跡・太子Ａ窯跡など中世の山茶椀・施釉陶器の窯跡が集中する。また赤津川を隔てた対岸には、縄文時代から近世にかけての複合遺跡である惣作・鐘場遺跡がある。

調査の概要　調査の結果、南南西方向に伸びる沢に灰原が形成されていることが確認された。灰原は約１ｍに渡り堆積しているが、上部は治山工事や度重なる盛土造成により削平されている。また、灰原の南側は道路建設時に削られている。灰原の形成は大きく２時期に分かれる。下層では南部系山茶椀・山皿、片口鉢など、さらに最下層の灰白色シルト層からは灰釉四耳壷・瓶子が未焼成の状態で出土した。出土遺物から13世紀後半から14世紀前半にかけて操業していたと考えられる。上層では匣鉢とともに天目茶碗、灰釉四耳壺、花瓶、柄付片口などが出土した。出土遺物から14世紀、いわゆる古瀬戸中期末の様相を示すが、出土遺物に現代のものを含むため、二次堆積の可能性が高い。

ま　と　め　出土遺物から、窯跡は13世紀前半から14世紀半ばの間、複数の窯の操業を想定する結果を得た。窯体については調査区内で確認することができなかったものの、埋積土中に窯体の破片を含む層があることから、一部もしくは全体が破壊されている可能性がある。

（鵜飼雅弘）



灰原完掘状況（南から）


古瀬戸前期四耳壺出土状況

Ⅰ-G-2号窯跡

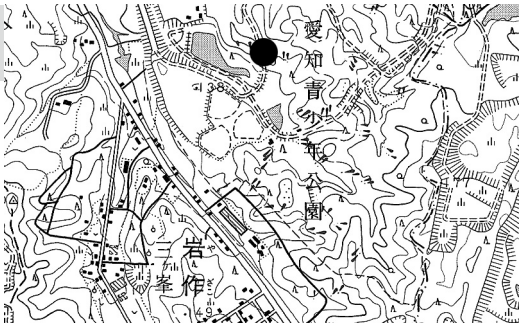
所　在　地　愛知郡長久手町岩作地内

調 査 理 由　公園緑地整備事業

調 査 期 間　平成 15 年 4 月～ 7 月

調 査 面 積　350 ㎡

担　当　者　藤岡幹根・酒井俊彦・鵜飼雅弘



調査地点（1/2.5 万「平針」）

調査の経過　調査は公園緑地整備事業に伴う事前調査として、愛知県建設部公園緑地課より委託を受けて、平成15年4月から7月にかけて実施した。調査面積は350㎡である。

遺跡の立地　Ⅰ-G-2号窯跡は日進市・豊田市と境を接する、愛知郡長久手町岩作に所在する、愛知県青少年公園の敷地内にある。周辺にはⅠ-G-6号窯をはじめとする三ヶ峯古窯跡、神明社古墳群などがある。窯跡は香流川右岸、北西に向けて延びる丘陵の北斜面に立地し、標高約139ｍを測る。なお調査地点には調査直前まで、園路に伴う休憩施設があった。

調査の概要　今回の調査では、分焔柱を有する窖窯を3基確認することができた。窯体はいずれも焼成室より上部で削平を受けており、焚口から焼成室の一部までの調査となった。

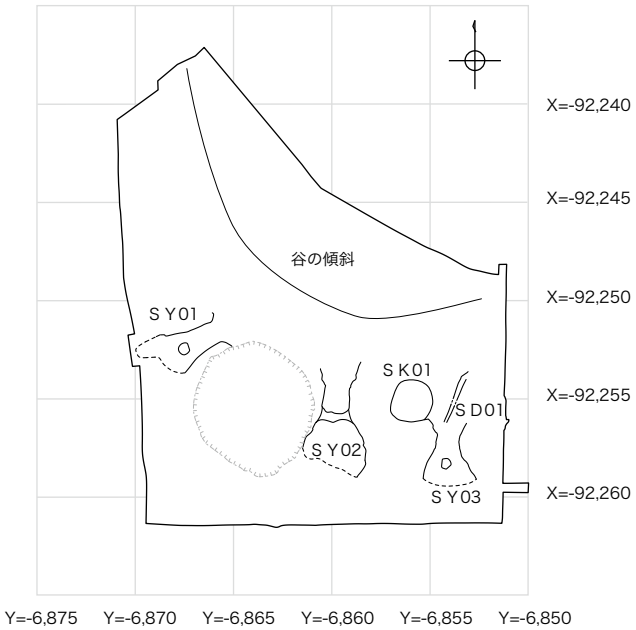
SY01は残存長約5ｍ、分焔柱付近の幅は約2.6ｍを測る。焼成室の平均斜度は約19° 分焔柱から焚口にかけての平均斜度は約1である。分焔柱は約33㎝の高さまで残り、地山をくりぬいて構築されている。焼成室の床面は1回の補修を確認することができる。

SY02は残存長約6.7ｍ、最大幅は約3.5ｍを測る。焼成室の平均斜度は約23° 床面の補修が少なくとも1回行われている。馬爪型焼台が一部焼成時の現位置をとどめていた。分焔柱は天井部までを残し、分焔孔も良好な状態で観察できた。

SY03は残存長約4.1ｍ、分焔柱付近で約2.9ｍを測る。焼成室の平均斜度は約15あり、焚口までほぼ同じ傾斜を保つ。床面に補修の跡が見られ、分焔柱及び焚口を山茶椀が釉着した塊を埋め込んで補強している。また焚口西側に作業場と考えられるSK01がある。

出土遺物は13世紀半ば頃の山茶椀及び山皿が中心であるが、SY01付近では土師質の鍋が出土している。なお調査後、窯体構築時に排出した土砂を用いて前庭部を構築したことが確認され、SY01・02とSY03との間に操業時期の差があったことが確認できた。

（鵜飼雅弘）



Ⅰ-G-2号窯跡主要遺構配置図（1：800）


SY02完掘状況（南から）

西田面（にしだめん）遺跡

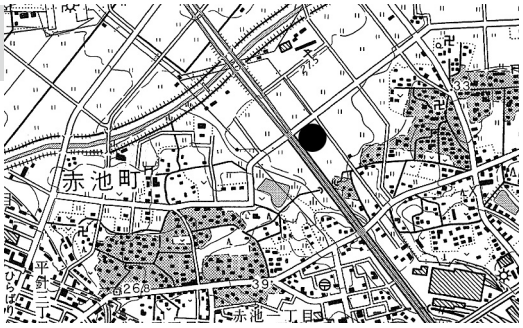
所　在　地　日進市浅田町地内

調 査 理 由　岩崎名古屋線建設

調 査 期 間　平成 16 年 1 月～ 2 月

調 査 面 積　1,000 ㎡

担　当　者　藤岡幹根・永井宏幸



調査地点（1/2.5 万「平針」）

調査の経過　調査は、岩崎名古屋線建設の事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成16年1月から2月にかけて実施した。調査面積は1,000㎡である。

立地と環境　西田面遺跡は日進市の西部、浅田町地内に所在する。現在の国道 153 号線バイパス浅田町交差点の南東に位置し、天白川左岸域に展開する沖積地に立地する。現地標高は27m前後を測る。隣接する遺跡としては、古代から中世にかけての遺構・遺物を確認した三ケ所遺跡が500m北東にある。

調査の概要　調査の結果、古代から近世にかけての遺構・遺物が確認された。

古代の遺構としては、土坑が3基、確認された。そのうち、SK04は須恵器長頸瓶が逆位に埋設された状態で見つかった。

中世の遺構としては、竪穴状遺構1基と土坑・ピット数基、東西方向と南北方向に延びる溝群が、調査区を横断するように確認された。これらの遺構はほぼ磁北に合わせた配置となり、自然地形に左右されない計画的な掘削が予想される。竪穴状遺構SB01は長軸方向の中軸線上に並ぶ柱穴が3ケ所ある。また火所がなく、通常の竪穴住居と異なった性格が見いだせる。つまり、簡易的な構造を持つ作業小屋として捉えたい。このSB01に東接するSD10からは、尾張第7～8型式の灰釉系陶器を中心におびただしい量の陶器類が廃棄されていた。

遺跡の性格としては、屋敷地など居住域と考えるよりは、水田など生産域に関連した磁北を意識した計画的な空間、つまり中世条里制遺構が推定できる。　（永井宏幸）


B区全景


SB01

高木（たかぎ）遺跡

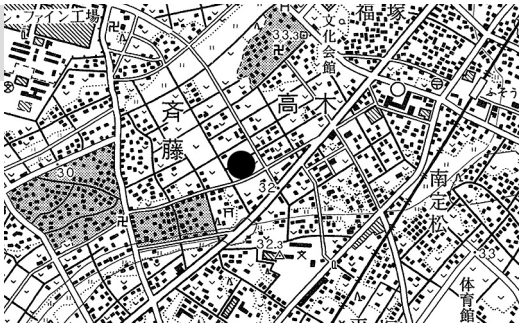
所　在　地　丹羽郡扶桑町高木

調 査 理 由　県道草井・羽黒線建設

調 査 期 間　平成 15 年 7 月～ 11 月

調 査 面 積　2,700 ㎡

担　当　者　藤岡幹根・武部真木



調査地点（1/2.5 万「犬山」）

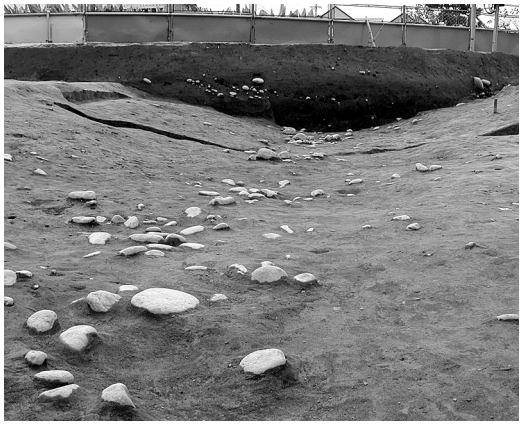
調査の経過　本遺跡は県道草井・羽黒線建設に伴う事前調査として愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として平成15年7月～11月の期間で調査を行った。調査面積は計2,700㎡であり、A・B・C・Dの4調査区に分割して進めた。

調査の概要　扶桑町は犬山市の南西方向にあたる扇状地帯にあり、調査範囲は微高地を横断する形となる標高28～32mの地点であり、西端は木曽川の支流（一之枝）であった旧河道に画される。木曽川にかけて周辺一帯の砂を多く含む土壌では、江戸時代は多くが桑畑であったが、近代以降今日まで守口大根や牛蒡などの生産が盛んであり、その特殊な栽培方法によって地表から約1～1.5mの深度まで溝状に撹拌されている。その結果、かつて畑地であった箇所では包含層および遺構の残存状況が極めて悪く、また、種芋等を貯蔵するための通称「イモアナ」と呼ばれる0.6× 1m前後、深さ1.5m規模の方形土坑が今日まで多数掘削されている。こうして撹拌された耕作土中には、須恵器、東濃産山茶椀、瀬戸・美濃産陶器、近世陶磁器、近現代陶磁器類が含まれるが、すべて小片となっている。

近世以前の遺構は、旧流路から離れるB・C・D区で確認された。C区では幅2～3m、深さ50～80㎝の溝がめぐる一辺10m規模の古墳と思われる方形の区画があり、遺物は検出されなかったが、B区で見つかった同様の規模と埋土の溝下層から古墳時代の土師器台付甕、須恵器壺、杯が出土している。D区では奈良時代の旧流路、これに重複する地点で幅約5m、深さ90㎝の平安時代の溝、さらに溝埋積後のその上に鎌倉・室町時代の集石遺構がある。集石は大小の河原石からなり、一辺約4mの方形部分とこれに沿って帯状に伸びる幅30㎝位の部分が認められ、石の間からは14～15世紀代の東濃産山茶椀、片口鉢、古瀬戸折縁皿、四耳壺片などが出土した。

以上のように大型の遺構を検出することができたものの、調査範囲全般に生活感が希薄であった。これが削平を原因とするものでないとすれば、墓域や耕作地など集落周縁の空間であったと思われる。（武部真木）


03C区　方形区画溝


03D区　平安時代溝

細田（ほそだ）古窯群

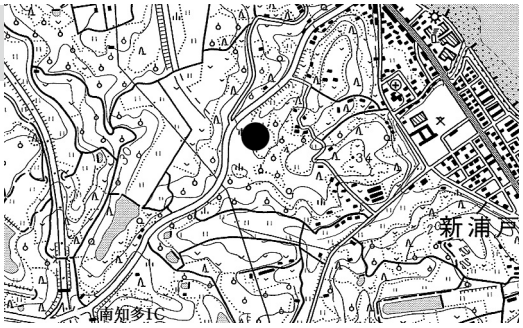
所　在　地　知多郡美浜町河和地内

調 査 理 由　県道半田南知多線

調 査 期 間　平成 15 年４月～７月

調 査 面 積　900 ㎡

担　当　者　小嶋廣也・松田　訓



調査地点（1/2.5 万「河和」）

調査の経過　調査は県道半田南知多線建設工事に伴う事前調査として、愛知県建設部より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成15年４月から７月にかけて実施した。調査面積は900㎡である。

立地と環境　細田古窯は知多半島南部に位置し、東西の海岸に町域を広げる美浜町の中で、東岸の河和集落から南知多町内海に通じる道を、半島中央部に連なる丘陵地側へ登った小谷に立地する。知多半島は、細田古窯のように灰釉系陶器（山茶椀）の生産地として著名であるが、調査地点は知多半島に所在する古窯址群の中でも、ほぼ南端に位置する。調査地点の旧態は果樹園、畑地で、周辺は果樹園、雑木林、竹林が広がる。

調査の概要　調査区は、斜面に平坦地を確保するため段状に造成されており、この果樹園跡に設定された。旧地形は、調査区中央に小谷の最深部が南北方向で通っており、これをはさんで東西にそれぞれ窯体が確認できた。検出された遺構は窯跡3基で、同時に灰原も確認できた。窯跡は、小谷最深部の西側に２基が並行して築かれており、この２基は、南向き斜面を北へ上る方向で掘削されていた。小谷最深部東側では、これとやや方向を変え東側に上る方向で掘削されており、小谷最深部を中心として扇形に３基が展開する。いずれの窯体も、造成時にほとんどの部分が削平されており、床面と窯壁・分焔柱の一部を確認できるのみであった。３基とも、床面下施設は伴わないものと思われる。出土遺物は、いわゆる山茶椀と皿で、いずれも12世紀後半～13世紀前半のものと思われる。（松田　訓）


SY01


SY03

小針（こばり）遺跡

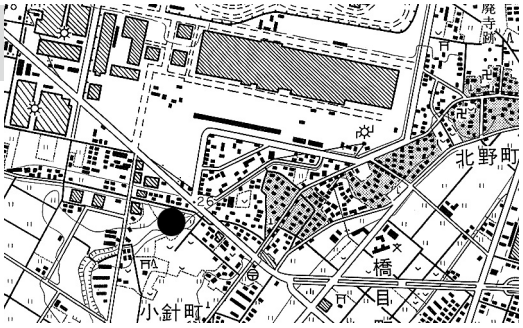
所　在　地　岡崎市小針町地内

調 査 理 由　県道名古屋岡崎線

調 査 期 間　平成 15 年 7 月～ 12 月

調 査 面 積　2,100 ㎡

担　当　者　小嶋廣也・松田　訓



調査地点（1/2.5 万「岡崎」）

調査の経過　調査は県道名古屋岡崎線建設工事に伴う事前調査として、愛知県建設部より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成15年7月から12月にかけて実施した。調査面積は2,100㎡である。

立地と環境　小針遺跡は、矢作川中流部に市域を広げる岡崎市の中で、右岸に広がる沖積平野と、この西側に広がる碧海台地との段丘崖台地側に立地する。調査地点の旧態は畑地で、周辺は住宅地が広がる。

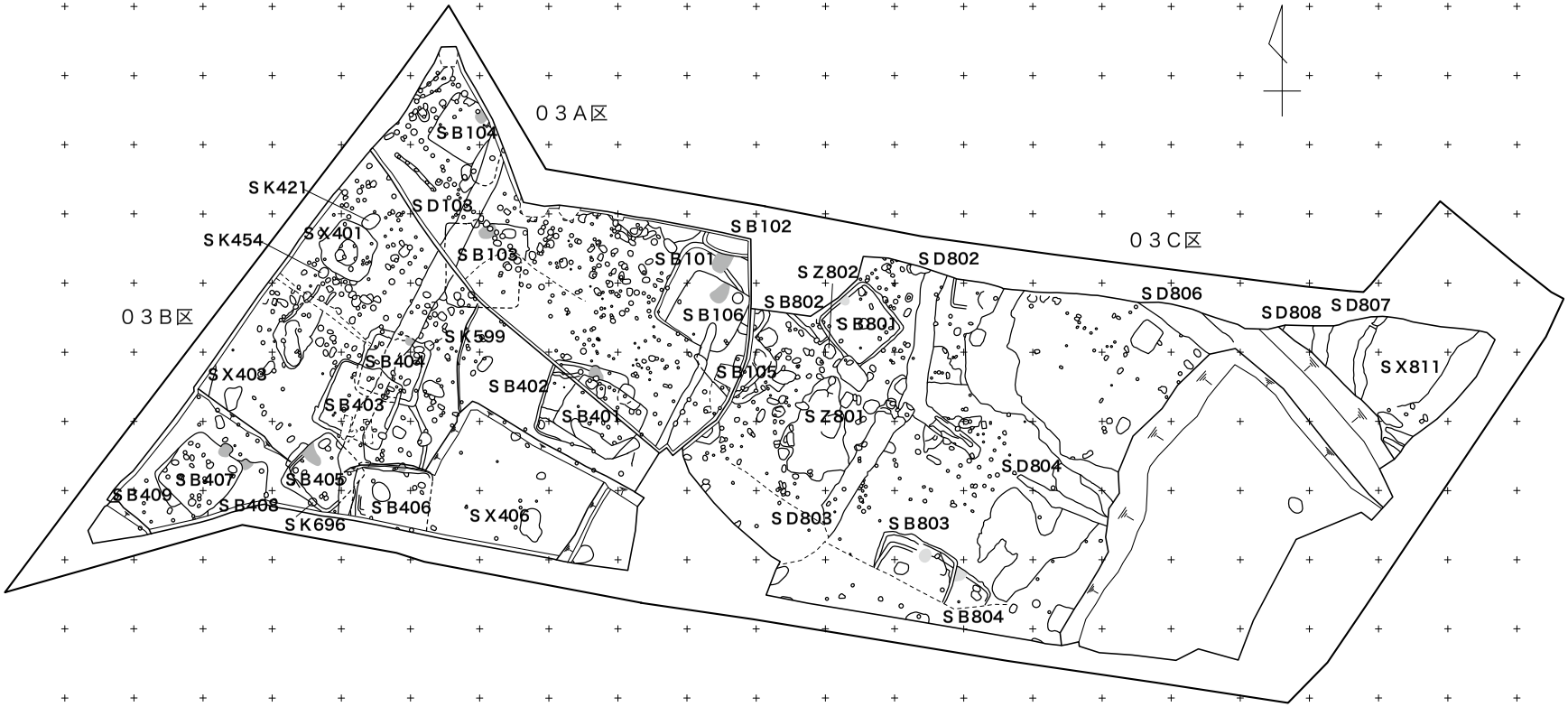
調査の概要　調査は、道路建設予定地に合わせ、東西方向に展開して設定された。この調査区を、周辺民家への侵入路確保のため西側半分を南北（A・B区）に分け、東側半分（C区）とあわせて三分割し、順次作業を進めた。調査地点の基本層序は、旧耕作土、客土の下に灰褐色シルトが入り、その直下に遺物包含層である暗褐色シルトが堆積し、基盤と思われる更新統の赤土がみられた。調査区東端では､河川の影響による粗粒砂層が認められた。

今回の調査で確認された遺構は、遺物の伴うものが少なかった。確認できたものに限れば、戦国時代以降のものと思われる溝を除いて、土坑、小穴、竪穴住居などは、7世紀前半を主体とするようである。竪穴住居跡は、調査地点内において約20を数えたが、多くのものは床面の北側中央部で、カマド跡と思われる焼土が認められた。多量に検出された小穴は、遺構間の相対関係を検討中である。これらの遺構は、出土遺物が少ないものの当該期の集落跡を物語っており、自然科学的分析も含めて現在整理中である。

（松田　訓）


A区南西から


B区南東から



小針遺跡遺構位置図（１：500）

上橋下遺跡（かみはしか）

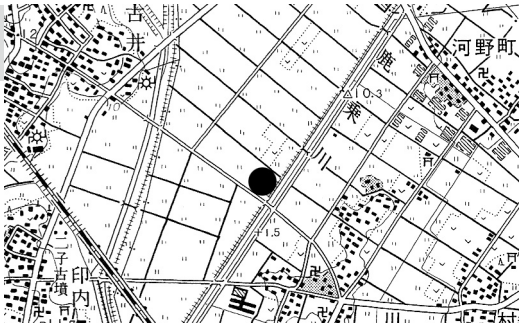
所　在　地　安城市川島町・古井町地内

調 査 理 由　鹿乗川改修

調 査 期 間　平成 16 年 1 月～ 3 月

調 査 面 積　600 ㎡

担　当　者　小嶋廣也・松田　訓



調査地点（1/2.5 万「安城」）

調査の経過　調査は鹿乗川改修工事に伴う事前調査として、愛知県建設部河川課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成16年1月から3月にかけて実施した。調査を行った面積は600㎡である。

立地と環境　上橋下遺跡は、矢作川右岸に形成された沖積低地の中で、ここを流れる鹿乗川の西側微高地上に立地する。調査地点の旧態は水田で、周辺一帯は現在も水田が広がる。現地表高は、約3.0ｍを測る。

調査の概要　調査地点の基本層序は、客土の下に旧耕作土が0.2ｍ入り、その直下に数層のシルトが堆積していて、灰色シルト層では古代末から中世の、暗赤褐色シルト層では弥生時代後期から古墳時代初頭の遺物が含まれていた。

調査地点は鹿乗川右岸に沿って、一昨年度･昨年度と順次北側から調査が行われており、本年度の調査区はこれら調査地点の南側に設定された。

昨年度までの両調査区で検出された自然河道は、今年度の調査地点でも縦断しており、上面で確認された遺構は、水田・溝・土坑などであった。遺物はこれらの遺構に伴うものがほとんど見られず、遺構の時期を特定することが困難であった。検出作業の段階で確認できたものは、わずかな灰釉陶器片、山茶椀片であった。

下面で検出された遺構は、方形周溝墓、溝、土坑などで、寄道式期と思われる土器片が確認できた。隣接調査地点では、方形周溝墓と考えられる溝が確認されており、これらの成果を検討することによって、遺構の性格が検証されるべきであろう。（松田　訓）


上面全景


東壁

III. 刊行報告書抄録

第 100 集　本川遺跡

本川遺跡

本川遺跡は岡崎市と境を接する豊田市南部の矢作川右岸に位置している。地理的には矢作川によって形成された沖積低地の北端に形成された幅 100m ほどの微高地上に立地する縄文晩期から戦国時代にかけての集落跡である。

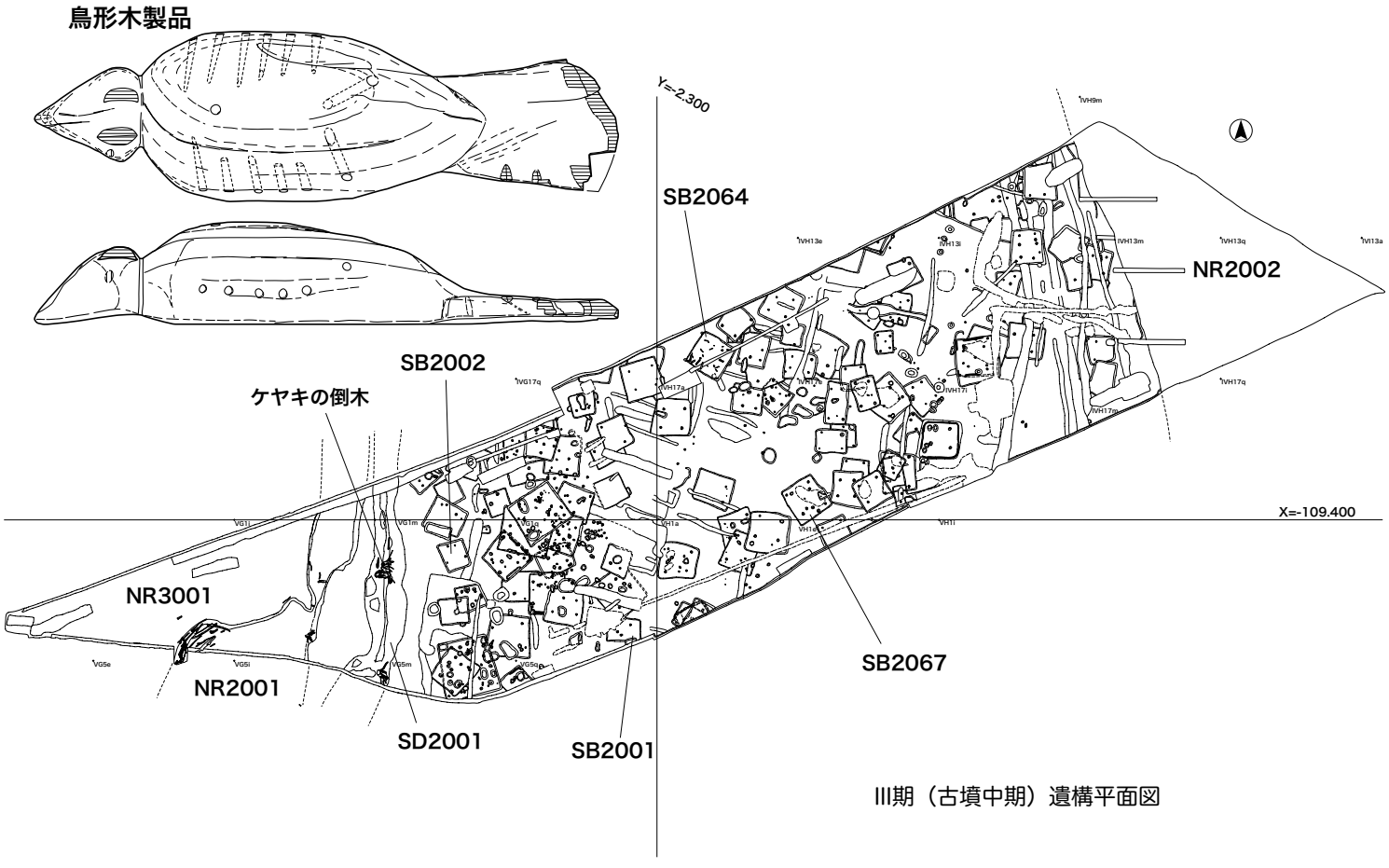
。期（縄文晩期～弥生中期前葉）の遺構は溝と土坑で、溝は数条が平行して走ることから、畠の畝間の可能性がある。

「期（弥生中期末～古墳前期）は微高地上で竪穴住居 12 棟と掘立柱建物 1 棟、谷の落ち際で溝数条を確認した。

」期（古墳中期）が本遺跡の最盛期で、微高地上に竪穴住居 93 棟のほか、溝・土坑を多数確認した。微高地の西端近くに南北方向の溝が 1 条走り、その中から多量の土器と木製品が出土している。溝際には一辺が 7 m を超える大型の竪穴住居が数棟建つ。また、作り付けのカマドを有する竪穴住居も 2 棟確認されている。このほか、西側の谷からは立体的な作りの鳥形木製品も出土している。ほぼ 5 世紀前半を中心とする比較的短期間の集落で、竪穴住居の重複状況からみて 4 時期程度の変遷が想定できる。未調査部分も含めると、竪穴住居は 30 棟程度の集落と推定することが可能である。

、期（古墳後期～平安時代）は溝数条を確認したのみで、明確な生活の痕跡は認められない。

・期（中世）および㌘期（戦国時代）は東側の谷が埋没し、区画溝を有する屋敷地が形成される。（樋上　昇）



III期（古墳中期）遺構平面図

報告書抄録

ふりがな	ほんがわいせき
書名	本川遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第100集
編著者名	樋上　昇・佐藤公保・川添和暁・鬼頭　剛・堀木真美子・上田恭子・森　勇一・藤根　久・今村美智子・山形秀樹・Zauri Lomtatize・植田弥生・池谷勝典・馬場伸一郎・望月明彦
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2003年８月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
ほんがわ 本川	あいちけんとよたし 愛知県豊田市 えかくちょう 永覚町 たいしょう ほんがわ 大正・本川	23211	63472	35度 07分 7秒	137度 8分 19秒	199804 ～ 199903	15,500	第二東海自動車道建設に伴う事前調査

※世界測地系による

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本川	集落	縄文 ～ 弥生	竪穴住居 掘立柱建物 溝 土坑	縄文土器 弥生土器 石器	畠遺構？
		古墳	竪穴住居 溝 土坑	土師器 須恵器 木製品 玉 石製品	カマド付住居 鳥形木製品
		古代	溝 土坑 自然流路	土師器 須恵器	
		中世	区画溝 土坑	灰釉系陶器 陶磁器 土師器	屋敷地
		戦国	区画溝 井戸 土坑	灰釉系陶器 陶磁器 土師器	屋敷地

第 107 集　猫島遺跡

本川遺跡

本川遺跡は岡崎市と境を接する豊田市南部の矢作川右岸に位置している。地理的には矢作川によって形成された沖積低地の北端に形成された幅 100m ほどの微高地上に立地する縄文晩期から戦国時代にかけての集落跡である。

。期（縄文晩期～弥生中期前葉）の遺構は溝と土坑で、溝は数条が平行して走ることから、畠の畝間の可能性がある。

「期（弥生中期末～古墳前期）は微高地上で竪穴住居 12 棟と掘立柱建物 1 棟、谷の落ち際で溝数条を確認した。

」期（古墳中期）が本遺跡の最盛期で、微高地上に竪穴住居 93 棟のほか、溝・土坑を多数確認した。微高地の西端近く



報告書抄録

ふりがな	ねこじまいせき
書名	猫島遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第107集
編著者名	洲嵜和宏・蔭山誠一・川添和暁・赤塚次郎・石黒立人他
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2003年８月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
ねこじま 猫島	あいちけんいちのみやし 愛知県一宮市 ちあきちょう 千秋町	23203	02106	35度 16分 43秒	136度 51分 14秒	19990601 ～ 20000804	32,000	高速道路 パーキング エリア建設

※世界測地系による

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
猫島	集落			縄文土器・石鏃	
		弥生	環濠・大溝 大型掘立柱建物 竪穴住居・土壙 方形周溝墓 木棺墓 墳丘墓	弥生土器・石器	管玉・玉造関係石器 土製人面
		古墳	土壙・井戸	須恵器・土師器	
		古代	掘立柱建物 竪穴住居 井戸・溝・土壙など	須恵器・土師器 灰釉陶器	墨書付灰釉陶器
		中世	方形区画溝 掘立柱建物 土壙・溝など	灰釉系陶器 土錘・銭貨	

第 110 集　権現山遺跡

本川遺跡

本川遺跡は岡崎市と境を接する豊田市南部の矢作川右岸に位置している。地理的には矢作川によって形成された沖積低地の北端に形成された幅 100m ほどの微高地上に立地する縄文晩期から戦国時代にかけての集落跡である。

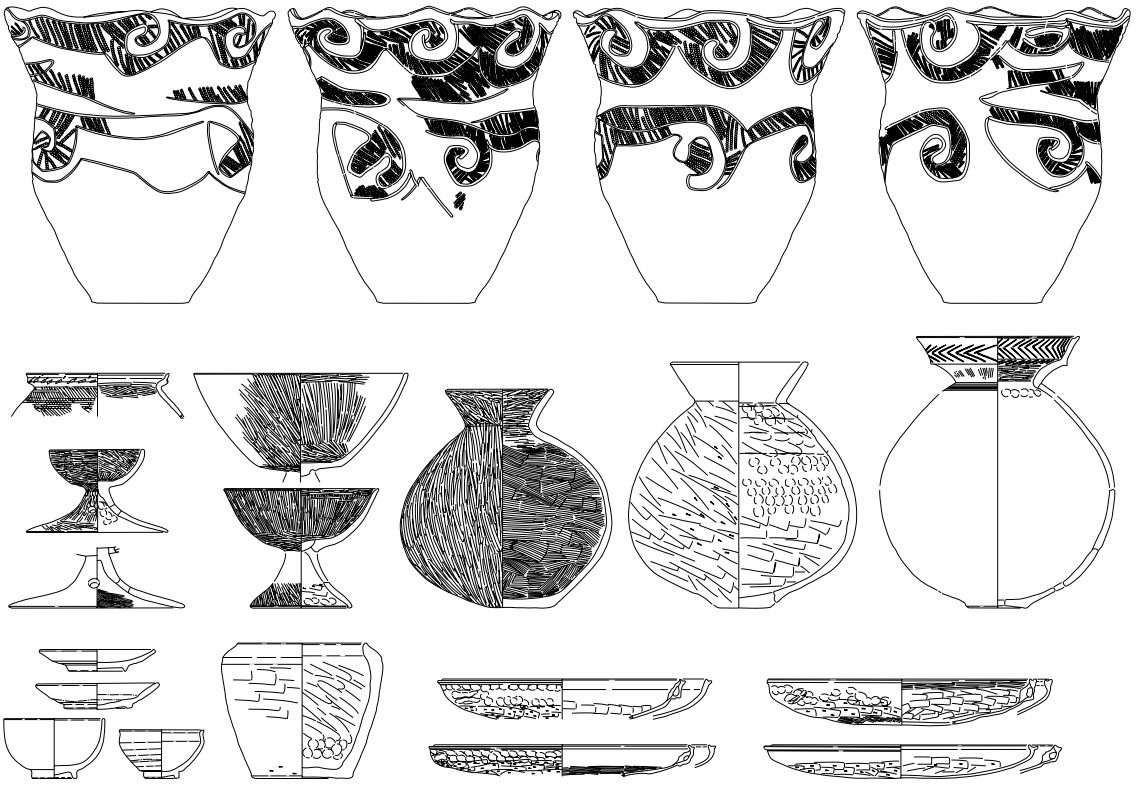
。期（縄文晩期～弥生中期前葉）の遺構は溝と土坑で、溝は数条が平行して走ることから、畠の畝間の可能性がある。

「 期（弥生中期末～古墳前期）は微高地上で竪穴住居 12 棟と掘立柱建物 1 棟、谷の落ち際で溝数条を確認した。

」期（古墳中期）が本遺跡の最盛期で、微高地上に竪穴住居 93 棟のほか、溝・土坑を多数確認した。微高地の西端近くに南北方向の溝が 1 条走り、その中から多量の土器と木製品が出土している。溝際には一辺が 7 m を超える大型の竪穴住居が数棟建つ。また、作り付けのカマドを有する竪穴住居も 2 棟確認されている。このほか、西側の谷からは立体的な作りの鳥形木製品も出土している。ほぼ 5 世紀前半を中心とする比較的短期間の集落で、竪穴住居の重複状況からみて 4 時期程度の変遷が想定できる。未調査部分も含めると、竪穴住居は 30 棟程度の集落と推定することが可能である。

、期（古墳後期～平安時代）は溝数条を確認したのみで、明確な生活の痕跡は認められない。

・期（中世）およびヲ期（戦国時代）は東側の谷が埋没し、区画溝を有する屋敷地が形成される。（樋上　昇）



報告書抄録

ふりがな	ごんげんやまいせき
書名	権現山遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第110集
編著者名	早野浩二・鵜飼雅弘・鬼頭　剛・上田恭子・藤根　久・今村美智子・小村美代子
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2003年８月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
ごんげんやま 権現山	あいちけんいわくらし 愛知県岩倉市 のよりちょう 野寄町	23228	11052	35度 16分 7秒	136度 51分 2秒	19960605～19960719 19970701～19971107 19990510～199912 20010611～20011015	500 1,800 500 2,350	五条川右岸流域下水道事業に伴う事前調査

※世界測地系による

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
権現山	集落	縄文	竪穴住居・土坑	縄文土器・石器・土偶？	低地部における縄文時代集落
		弥生～古墳	竪穴住居・墳丘墓・溝・土坑	弥生土器・土師器	弥生時代後期から古墳時代前期の墳丘墓群
		古墳	円墳・横穴式石室	土師器・須恵器・鉄刀子	
		奈良～平安	竪穴住居・溝	土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦	
		鎌倉～室町	溝・土坑	土師器・灰釉系陶器・中国陶磁・古瀬戸ほか	
		江戸	溝・土坑・井戸	瀬戸美濃窯産陶器・瓦・土師器・砥石ほか	

第 111 集　木戸城遺跡・古新田遺跡

木戸城遺跡（愛知県安城市）

1　検出できた遺構のうち、木戸城跡に関連するものには、土塁・掘立柱建物・溝・土坑などがある。土塁は調査区の東西で検出されているが、SQ01は残存状況が比較的良好となる。改修が確認されており、規模は当初が基底部幅7.9m・残存高1.1m、改修後が基底部幅10.3m・残存高1.7mをはかる。

2　主郭内部ではSB06が検出されている。規模は2m×3.6m、柱穴は検出面からの深さが0.9mにも及び、建物規模の割に柱穴が大きくて深い。建物に高さを要求した結果と考えられる。

3　出土遺物は乏しいが、SK167資料が比較的まとまっている。廃棄土坑と考えられ、施釉陶器・灰釉系陶器・土師器のほか、壁土状の焼土塊や、塊状の炭化米がある。

4　調査区内で飛鳥時代～奈良時代の集落遺跡も確認された。竪穴住居や掘立柱建物・土坑がある。竪穴住居は3棟確認され、このうち残存状況が良好なSB02は、長辺5.3m、短辺3.9mとなる。　（池本正明）

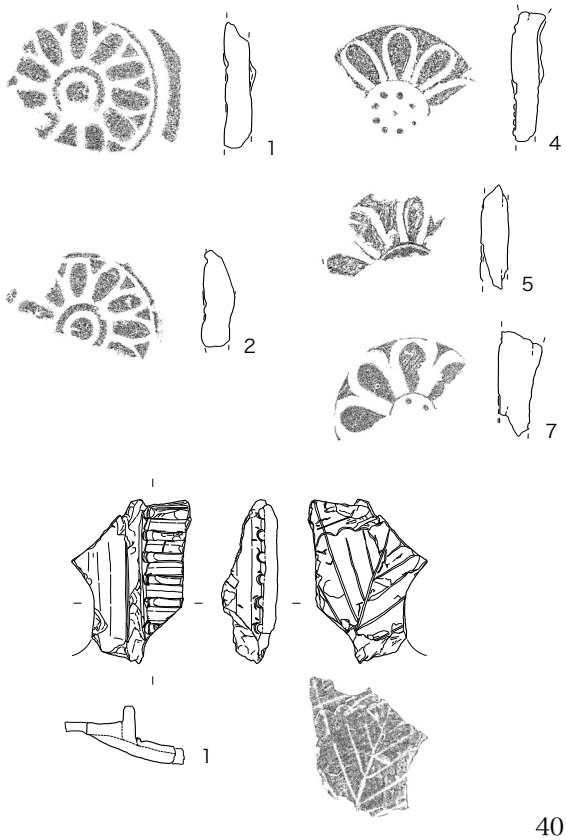


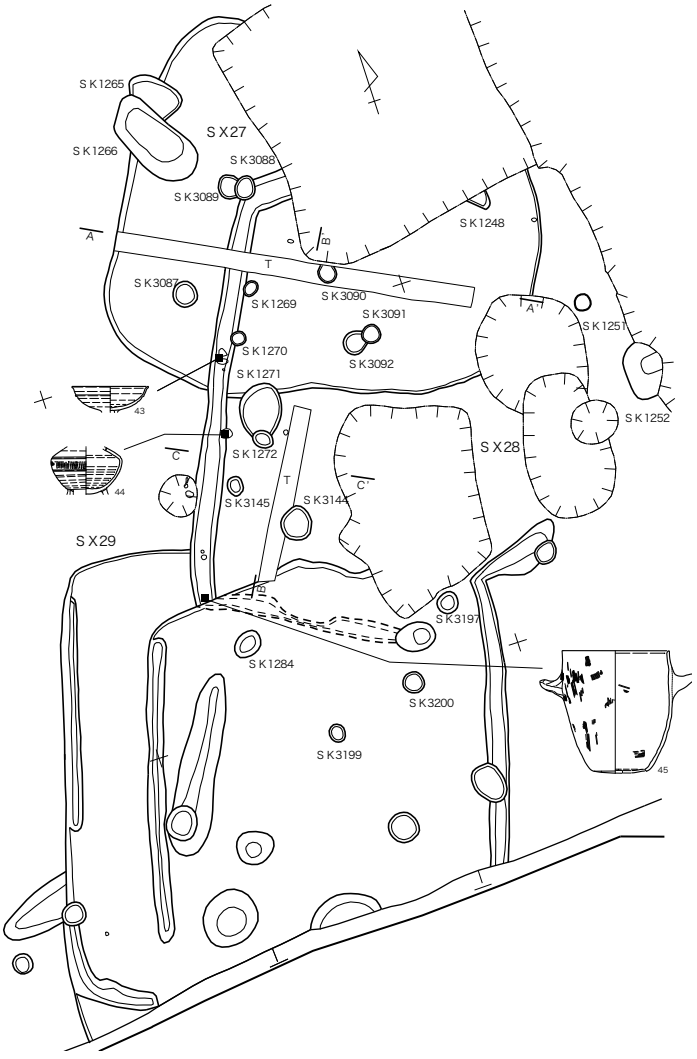
古新田遺跡（愛知県西尾市）

1　飛鳥時代から奈良時代までの竪穴住居 39 棟を検出した。本遺跡の南側には志貴野廃寺推定地が位置している。

2　出土遺物には古代瓦や瓦塔がが見られる。県内 23 ヶ所の寺院跡・瓦窯跡の瓦 253 点の胎土分析を実施し、結果を掲載している。

3　中世の溝・井戸・焼土土坑なども検出している。





報告書抄録

ふりがな	きどじょういせき・こしんでんいせき
書名	木戸城遺跡・古新田遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第111集
編著者名	池本正明・松田　訓・鈴木　裕・神谷巳佳 小嶋廣也・武井繁樹・鬼頭　剛・(株)第四紀地質研究所・(株)パレオ・ラボ
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2003年８月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
きどじょう 木戸城	あいちけんあんじょうし 愛知県安城市 きどちょう 木戸町 ひがしやしき 東屋敷	23212	5445	34度 53分 31秒	137度 5分 26秒	20001010 ～ 20001207	1,400	矢作川改修に伴う事前調査
こしんでん 古新田	あいちけんにしおし 愛知県西尾市 しきのちょう 志貴野町 みやまえ 宮前	23213	55230	34度 53分 19秒	137度 5分 3秒	20001121 ～ 20010330	4,100	

※世界測地系による

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
木戸城	集落	飛鳥 ～ 奈良	竪穴住居３棟 土坑 掘立柱建物２軒	須恵器 土師器	
	城跡	室町	掘立柱建物１軒 柵、土坑、溝 土塁３条	灰釉系陶器 土師器 施釉陶器 貿易陶磁	
古新田	集落	古代	竪穴住居39棟 土坑 掘立柱建物23軒 溝	須恵器、土師器 灰釉陶器、製塩土器 土錘、古代瓦 瓦塔	
		中世	掘立柱建物５軒 溝 井戸４基 土坑墓 焼土土坑	灰釉系陶器 土器 施釉陶器 焼締陶器	
		江戸か	堤防跡		

第 112 集　八王子遺跡

第 112 集　八王子遺跡

遺跡は瀬戸市街北東部の丘陵地帯に位置する縄文時代および中世・近世の複合遺跡である。調査範囲は縄文時代早期後葉～前期初頭の集落に近く、特に粕畑式を主体とする当該時期の条痕文系土器・石器の豊富かつ良好な資料が得られた。この地域の早期後葉の中心であった可能性は高く、山間部に立地する早期後葉の集落としては、県下でも代表的な遺跡として今後評価されよう。

出土土器では押型文土器、茅山下層式、元野式、八ッ崎Ⅰ式、粕畑式、上ノ山式、入海式などの早期後葉の資料を主に、若干量の前期初・中葉、中期後葉の土器があり、なかでも土器装飾に認められた多種多様な特徴が「粕畑式」の内容をさらに充実させるものと考えられる。出土石器類は総数で約 3,200 点あり、これには石鏃 319 点、石匙 21 点などが含まれる。報告では、包含層資料については器種単位でまとめ、また一括性の高い土器資料と共伴する石器群を特に抽出して記述を行った。

中世では施釉陶器類がまとまって出土しているものの、壺類、焼成不良品、窯道具などの占める割合が高い。一般的な消費地でみられる構成とはやや異なっており、恒常的な居住地ではなく墓域あるいは作業場等の空間であったと想定した。

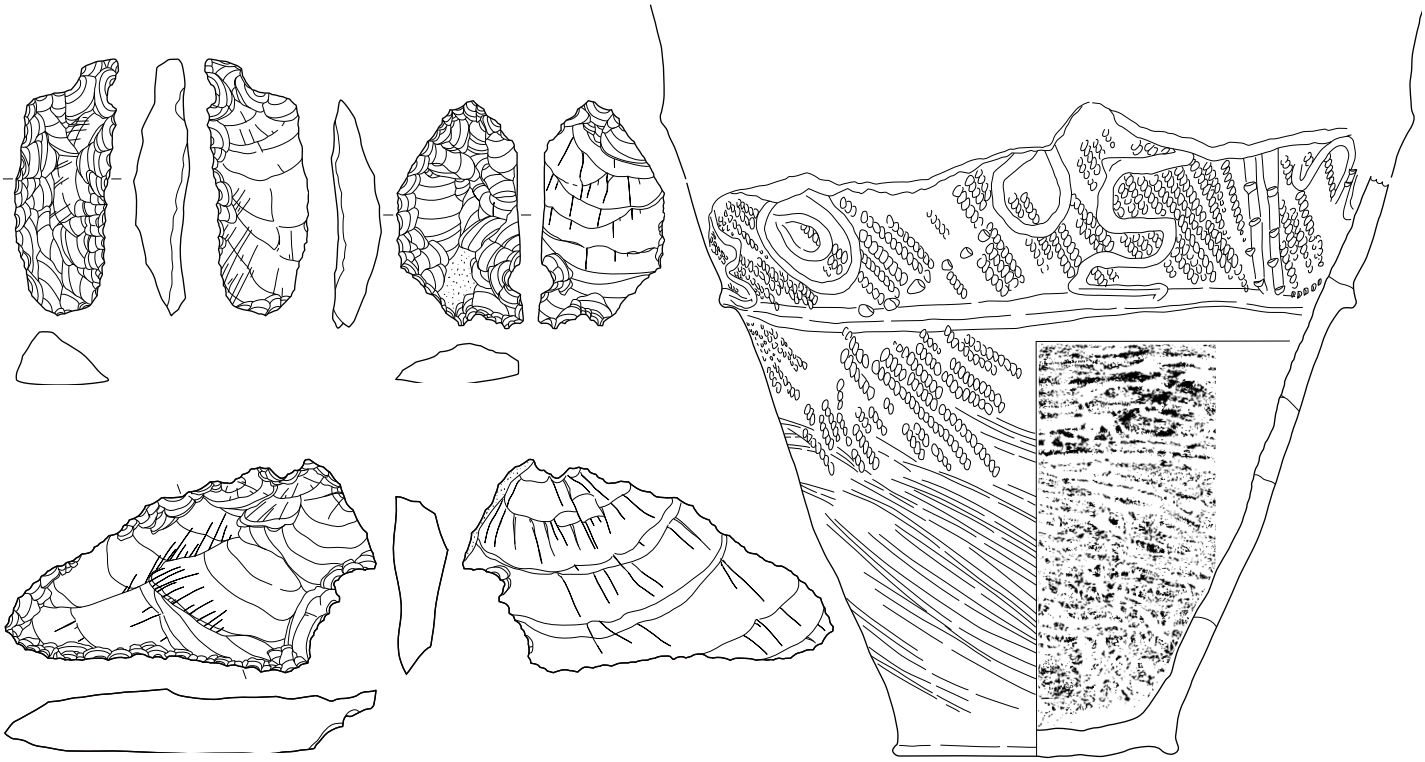
自然科学分析では、黒曜石を用いた石器の理化学分析、縄文土器胎土中の重鉱物分析、縄文土器（粕畑式）付着の炭化物の放射性炭素年代測定を行った。

◆本文 84 頁、図版 76PL、写真図版 31PL

◆ CD-ROM 収録データ

○報告書 PDF 版　　○遺構登録一覧表

○土器胎土分析サンプルデータ　　○遺物登録一覧表



出土石器（石匙）と茅山下層式土器

報告書抄録

ふりがな	はちおうじいせき
書名	八王子遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第112集
編著者名	武部真木(編集)・鬼頭　剛・川添和暁
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2003年８月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
はちおうじ 八王子	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 はちおうじちょう 八王子町	23204	03951	35度 13分 29秒	137度 8分 15秒	199810～199903 200001～200003 200005～200008 200011～200012 200108～200208	5,700	東海環状自動車道建設に伴う事前調査

※世界測地系による

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八王子	集落	縄文 早期	土坑 ピット	縄文土器 石器	
		鎌倉 室町	土坑 ピット 溝	灰釉系陶器 瀬戸美濃産陶器 近世陶磁器 鉄滓	

第 114 集　石堂野Ｂ遺跡

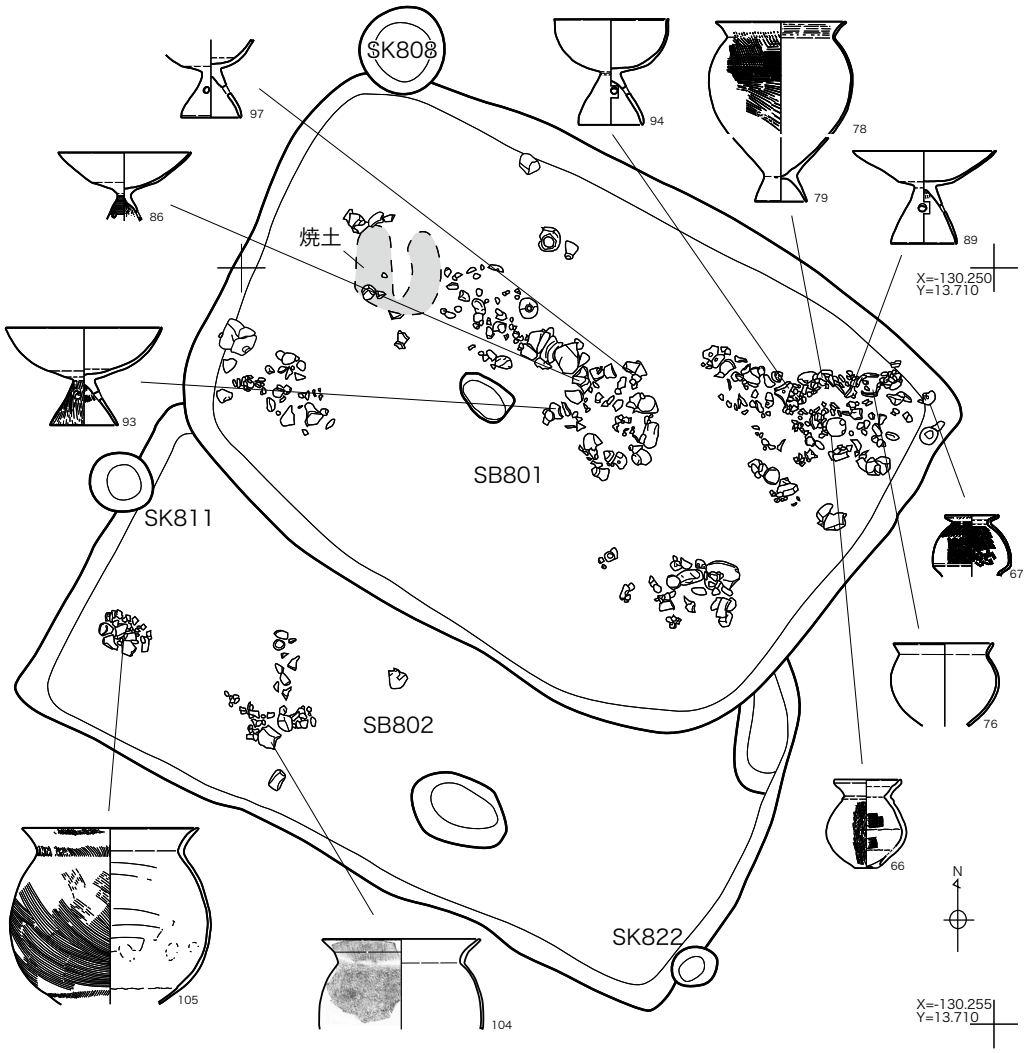
石堂野Ｂ遺跡は、三河湾の最奥部、宝飯郡御津町に位置し、南東方向に向かってゆるやかに下る舌状の高まりと、小河川によって開削された浅い谷上に立地する。調査では、弥生時代末から古代にかけての集落跡が検出され、同時期及び近世の墓域も検出された。

調査地点より舌状台地を約300ｍ上った地点には、本センターが昭和60年度に調査を行った「石堂野遺跡」が所在する。両地点で確認された遺物は、時期的に整合性をもつため一連の遺跡と考えることも可能であるが、調査地点間が同一の文化面をもってつながるとは断定できないため、本調査地点名は、「石堂野B遺跡」として報告した。

弥生時代末～古墳時代初頭にかけての遺構は、竪穴住居跡、方形周溝墓が検出され、出土遺物の時期はいずれも欠山期の後半ととらえられるものであった。

古墳時代後期の遺構では、脆弱な規模ながら古墳の周溝の可能性が考えられるものが検出され、円筒埴輪片も検出された。

平安時代、中～近世の遺構では、掘立柱建物跡と思われる柱穴列が、やや距離をとりながら方向・規模を同じくして並立して検出された。この他に近世と思われる火葬墓跡も検出された。　　（松田　訓）



SB801・802平面図(1/50)

報告書抄録

ふりがな	いしどうのびーいせき
書名	石堂野Ｂ遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第114集
編著者名	松田　訓・山形秀樹・植田弥生((株)パレオ・ラボ)
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2003年８月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
いしどうのびー 石堂野Ｂ	あいちけんほいぐん 愛知県宝飯郡 みとちょう 御津町 おおあざひろいし 大字広石	23604	-	34度 49分 43秒	137度 18分 46秒	20000508 ～ 20000927	6,400	県道大塚・国府線建設

※世界測地系による

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
石堂野Ｂ	集落 墓域	弥生末～ 古墳初期	竪穴住居 方形周溝墓	土器	
		古墳後期	溝	須恵器 円筒埴輪	
		平安時代	土坑	緑釉陶器 円面硯 灰釉陶器	
		中～近世	住居・火葬墓 土壙墓	銭貨	

第 116 集　凧山屋敷遺跡

烏帽子遺跡

烏帽子遺跡は知多半島の北部、東海市高横須賀町烏帽子に所在する。遺跡は伊勢湾に面する浜堤上に立地し、現地表面標高は約４m、遺構検出面は２～３m であった。

遺跡の時期は大きく５期に区分できる。

Ⅰ期（縄文晩期から弥生時代）の遺構は土坑墓が検出されたのみであるが、遺物は比較的豊富であった。石器も出土しているので集落が存在したと考えられる。

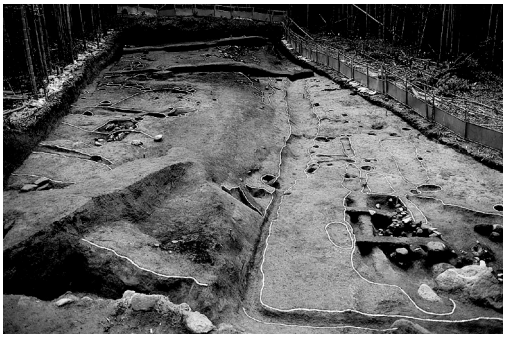
Ⅱ期（古墳時代）はガラス製勾玉・小玉、管玉がベンガラとともに土坑墓から出土した。時期は古墳時代中期から後期初めにかけてであり、当時付近は墓域であったろう。

Ⅲ期（古代）は遺跡の中心をなす時期であり、竪穴建物や土坑が多数みつかり、遺物も豊富であった。製塩集落であったと考えられる。

Ⅳ期（中世）は溝が１条検出されたのみで、実態は不明である。

Ⅴ期（江戸時代）は横須賀御殿もしくは代官所の時代であり、大規模な溝（堀）や横須賀御殿窯関連の遺物が出土した。

（石黒立人）



A区戦国時代の遺構



B区SK441出土状況



中世鳥形土製品



加藤春岱銘陶器

報告書抄録

ふりがな	たこやまやしきいせき
書名	凧山屋敷遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第116集
編著者名	宇佐見　守・藤岡幹根・永井宏幸
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2003年８月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
たこやまやしき 凧山屋敷	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 たこやままち 凧山町	23204	不明	35度 13分 36秒	137度 7分 52秒	20020117 ～ 20020330	1,600	県道瀬戸設楽線建設に伴う事前調査

※世界測地系による

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
凧山屋敷	集落			縄文土器、石鏃	
		古代	竪穴住居　３棟	土師器、須恵器 製塩土器、灰釉陶器	製塩土器
		中世	竪穴状遺構　２基	古瀬戸製品、山茶椀 土師器、中国産青磁 銭貨、砥石	鳥形土製品
		戦国	大型土坑　１基 掘立柱建物　４棟 溝　４条、土坑など	大窯製品、常滑産甕 土師器、中国産磁器	大量の窯道具
		近世	井戸　２基 水回り施設　１基 溝、土坑など	瀬戸美濃産陶磁器 土師器	春岱銘の陶器
		近代	道路状遺構　１本 溝３条など	陶磁器	

第 117 集　烏帽子遺跡 II

烏帽子遺跡

烏帽子遺跡は知多半島の北部、東海市高横須賀町烏帽子に所在する。遺跡は伊勢湾に面する浜堤上に立地し、現地表面標高は約４m、遺構検出面は２～３m であった。

遺跡の時期は大きく５期に区分できる。

Ⅰ期（縄文晩期から弥生時代）の遺構は土坑墓が検出されたのみであるが、遺物は比較的豊富であった。石器も出土しているので集落が存在したと考えられる。

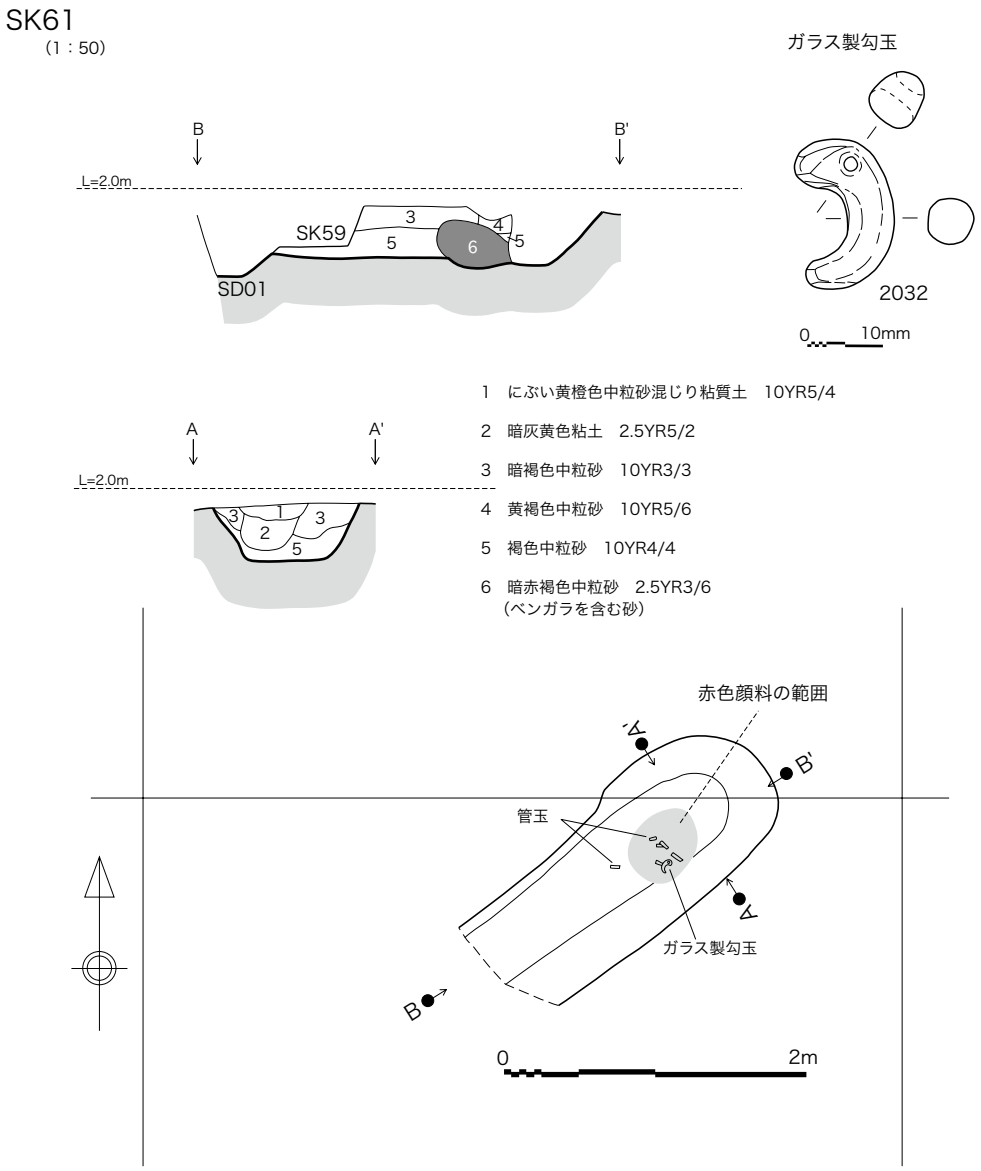
Ⅱ期（古墳時代）はガラス製勾玉・小玉、管玉がベンガラとともに土坑墓から出土した。時期は古墳時代中期から後期初めにかけてであり、当時付近は墓域であったろう。

Ⅲ期（古代）は遺跡の中心をなす時期であり、竪穴建物や土坑が多数みつかり、遺物も豊富であった。製塩集落であったと考えられる。

Ⅳ期（中世）は溝が１条検出されたのみで、実態は不明である。

Ⅴ期（江戸時代）は横須賀御殿もしくは代官所の時代であり、大規模な溝（堀）や横須賀御殿窯関連の遺物が出土した。

（石黒立人）



報告書抄録

ふりがな	えぼしいせき
書名	烏帽子遺跡II
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第117集
編著者名	石黒立人・小村美代子・植田弥生・黒澤一男・山形秀樹
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2003年８月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
えぼし 烏帽子	あいちけんとうかいし 愛知県東海市 たかよこすかちょう 高横須賀町 えぼし 烏帽子	23222	43062	35度 00分 55秒	136度 53分 15秒	20000413 ～ 20000927	2,500	国道153号線建設に伴う事前調査

※世界測地系による

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
烏帽子	集落	縄文		縄文土器 独鈷石	
		弥生	竪穴住居 土坑墓	弥生土器 有孔磨製石鏃	
		古墳	土坑 墓	ガラス製勾玉 ガラス小玉 管玉	土坑内部からベンガラとともに出土
		古代	竪穴住居 土坑	須恵器 土師器	
		室町	溝	山茶椀	
	その他	江戸	溝	陶磁器類	御庭焼窯関連窯道具類が出土

第 118 集　巡間Ｅ窯跡

烏帽子遺跡

烏帽子遺跡は知多半島の北部、東海市高横須賀町烏帽子に所在する。遺跡は伊勢湾に面する浜堤上に立地し、現地表面標高は約４m、遺構検出面は２～３m であった。

遺跡の時期は大きく５期に区分できる。

Ⅰ期（縄文晩期から弥生時代）の遺構は土坑墓が検出されたのみであるが、遺物は比較的豊富であった。石器も出土しているので集落が存在したと考えられる。

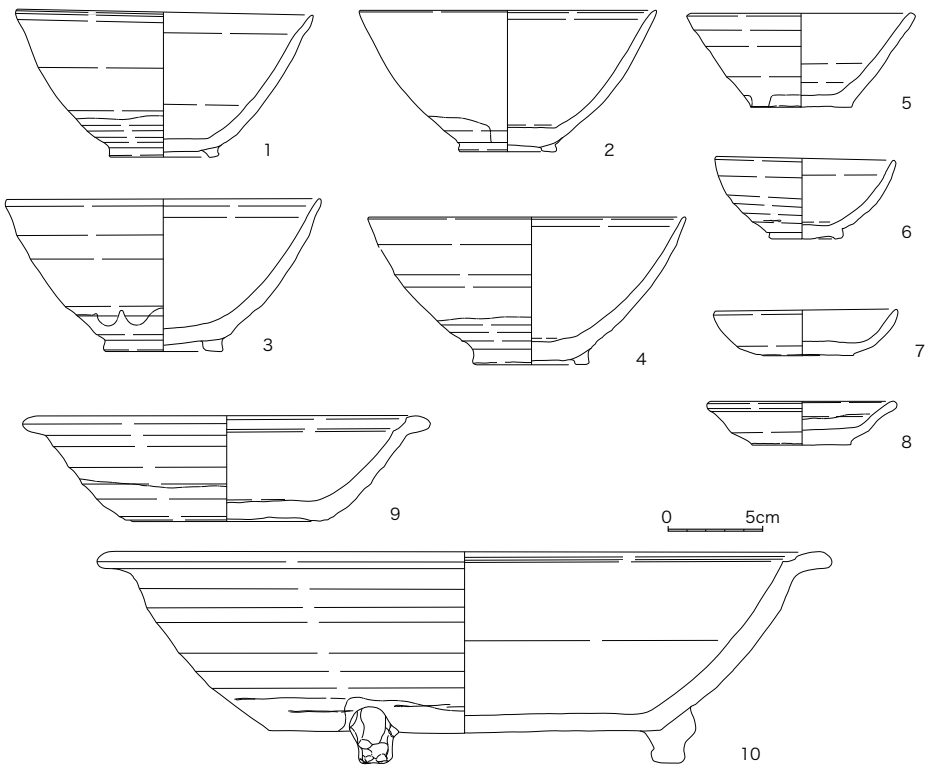
Ⅱ期（古墳時代）はガラス製勾玉・小玉、管玉がベンガラとともに土坑墓から出土した。時期は古墳時代中期から後期初めにかけてであり、当時付近は墓域であったろう。

Ⅲ期（古代）は遺跡の中心をなす時期であり、竪穴建物や土坑が多数みつかり、遺物も豊富であった。製塩集落であったと考えられる。

Ⅳ期（中世）は溝が１条検出されたのみで、実態は不明である。

Ⅴ期（江戸時代）は横須賀御殿もしくは代官所の時代であり、大規模な溝（堀）や横須賀御殿窯関連の遺物が出土した。

（石黒立人）



巡間Ｅ窯跡SY02出土遺物

報告書抄録

ふりがな	はざまいーかまあと
書名	巡間Ｅ窯跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第118集
編著者名	川添和暁・織部匡久・八木佳素実・植田弥生・藤根　久・Zauri Lomtatize
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2003年８月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
はざまいーかま 巡間Ｅ窯	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 はざまちょう 巡間町	23204	03790	35度 15分 30秒	137度 8分 16秒	200104 ～ 200106	1,400	東海環状自動車道建設に伴う事前調査

※世界測地系による

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
巡間Ｅ窯	窯業遺跡	中世	窯体２ 作業施設 ロクロピット 土坑 灰原	灰釉系陶器(山茶椀) 施釉陶器(古瀬戸)	窯体構造(ダンパー部分)の残存が良好 窯体内から古瀬戸後期Ⅰ段階の一括遺物
	遺物散布	縄文		縄文土器 石鏃 磨製石斧	
		古代末 ～ 中世初		灰釉陶器 灰釉系陶器(山茶椀)	

IV. 埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会の記録

平成 15 年度　埋蔵文化財展について

１展示会の経緯

平成14年度埋蔵文化財展終了頃、昨年度担当者により、次年度開催地候補の選定作業を進めつつあった。ちょうどそのころ、愛知県陶磁資料館より平成15年度企画展の一つとして、愛知県埋蔵文化財調査センター管理の遺物を中心に、昭和62年以来となる「新出土品展」を行いたく、ついては当埋蔵文化財センターと共催で行いたい、との申し入れがあった。埋蔵文化財センター内で協議の結果了解され、平成14年度10月から準備が始まった。なお、今回の展示は、愛知県陶磁資料館の瀬戸展 (愛知県陶磁資料館での展示を示す。以下同じ) のみならず、高浜展 (高浜市やきものの里かわら美術館での展示を示す)、また平成16年度に豊橋展 (豊橋市美術博物館での展示を示す) と巡回展示をした (表１)。

２実施体制

従来の埋蔵文化財展と異なるところは、愛知県埋蔵文化財センターの役割である (図１)。埋文センターは展示のコンセプト･企画のアイデア･遺跡遺物に関する情報の提供を行い、陶磁資料館側はそれを修正・監修したのち実際に展示を行うという役割である。なお、後述するイラストは最終的な仕上げをデザイナーに委託し、愛知埋文の方で監修を行った。

３展示の基本理念

今回の展示には、二つの点に重点を置いた。一つは「遺跡の展示を目指すこと」である。考古学の展示で多く見うけられるものは、あるテーマに沿った遺物を時代順に並べた展示である。遺物の説明としてその出土状態などをパネルなどで紹介するものの、遺物が主体となる展示になる傾向にあると言えよう。埋蔵文化財の調査に携わっているものとしては、出土遺物のみならず、遺跡の発掘調査成果をいかに展示・普及するかが、最重要課題であると考えられる。それは日ごろ行っている埋蔵文化財の調査の有効性を、広く示すことにほかならないからである。

表１　埋蔵文化財展開催期間一覧

展示名	会場 開催期間
瀬戸展	愛知県陶磁資料館 2003年８月30日～11月16日
高浜展	高浜市やきものの里 かわら美術館 2003年12月６日～2004年１月18日
豊橋展	豊橋市美術博物館 2004年４月24日～５月30日

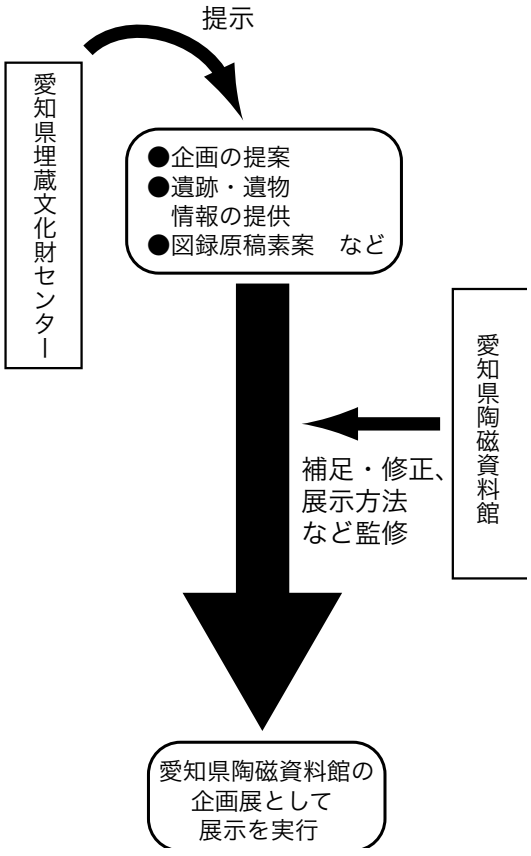


図１　埋蔵文化財展実施体制

もう一つは「展示により、受け手がいかに遺跡のイメージを膨らませることができるか」である。遺跡の発掘調査成果を示すために、遺物にまつわる遺構図・写真パネルを併用した展示が多い。考古学に携わっている者ならば、それを見て各人が遺跡のイメージをある程度もつことができるのであろう。しかし、普段、考古学に関わりの少ない方々がそれらを見て、果たしてどの程度遺跡に対するイメージを持つことができるのであろうか。

この展示では、特に埋蔵文化財に触れる機会の少ない方々に対象を設定し、一人でも多く愛知県の埋蔵文化財に親しみを持っていただけるような展示を志向した。

４具体的実施内容

上記の基本理念を実施すべく、展示作業および埋文講演会・講座を開催した。以下、その実施内容について報告する。

展示　瀬戸展では三部構成で行った（表２）。第二展示室で行った「掘りたての遺跡・洗いたての土器　埋蔵文化財速報展 2003」は、従来の埋文展で行っている速報展に近いものである。瀬戸展でのあり方を中心に、それ以外の展示についてコンセプトを提示する。

表２　埋蔵文化財展（瀬戸展）も展示構成

展示会場	展　示　名
第一展示室	歴史の風景 ー遺跡からのメッセージー
第二展示室	掘りたての遺跡・洗いたての土器 埋蔵文化財速報展2003
特別展示室	弥生神とのであい ー考古学・弥生ムラ縁起ー

「歴史の風景―遺跡からのメッセージ―」

この展示は、陶磁資料館側から「新出土品展」として通史的な展示を企画されたものである。埋文センターとしては、遺跡の展示を行うに際し、発掘調査の成果をもとにいかに当時の景観(風景)

（1）調査時の遺構写真



（2）出土遺物



（3）風景イラスト

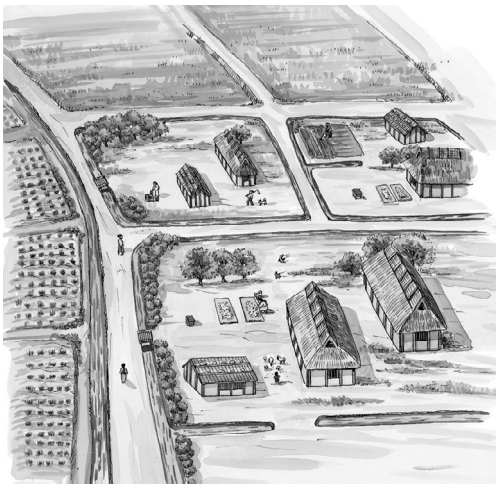
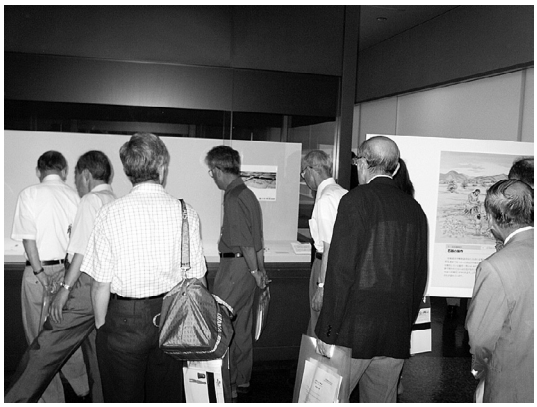


図２　「歴史の風景」遺跡展示コンセプト（例は郷上遺跡）

を復元できるのか、という視点に立つことを考えた。具体的には (1) 調査時の遺構写真、(2) そこから出土した遺物、そして (3) その写真から復元された風景 (展示では「風景イラスト」と呼称) を三位一体として、その遺跡の在りし日の一場面を視覚的に訴える展示にした (図２)。

展示に使用した遺跡は、前回の「新出土品展」以降の発掘調査成果が報告されている遺跡に限定した。今回の展示で、上記の (1) ～ (3) を三位一体として展示しうる遺跡として、後期旧石器時代１・縄文時代２・弥生時代３・古墳時代２・古代４・中世２・近世３・近代１の、計 18 遺跡を選択した。この風景イラストでは表現できず、かつ愛知県の歴史を紹介するために補足が必要と考えられる項目に関しては、陶磁資料館側と協議の上、別途項目立てを決定した。



埋蔵文化財展会場風景

「弥生神とのであい―考古学・弥生ムラ縁起―」

濃尾平野における縄文時代から弥生時代へのムラの移り変わりを、架空の人物を設定して物語風にしたイメージ展示である。根幹となる考古学的事象は、ムラの半分が洪水対策と考えられる環濠をつくりながらも洪水によりムラが壊滅したとされる、一宮市猫島遺跡の調査成果である。それに清洲町ほか朝日遺跡におけるここ数年の発掘成



図３　「弥生市場のチラシ」

「弥生神とのであい」ストーリー内容

今から2,500年前のある夏の日
濃尾平野北部の縄文ムラ「ネコジマムラ」を大洪水が襲った。
ムラは壊滅的な打撃を受け
ムラ人の多くが死に、住まいが流された。
残された人々の中から、一人の若者「ダイチ」が選ばれる。
ムラを蘇らせる知恵を探るために湿原のムラ
「アサヒムラ」に向かうことになった。
ダイチはそこで始めて「弥生神」と出会う。
湿原の民、アサヒ部族が住むアサヒムラは
周りを幾重にも大きな濠が巡る巨大なムラであった。
そこには大きな市場があり
たくさんの見知らぬ品物や豊富な食べ物があった。
それを求めていろいろな部族が集まってきていた。
ダイチはこの弥生市場で、北から来た旅人「クルス」と出会う。
旅人、クルスの話から、弥生神を祀る各地のムラむらの様子や
そこでの暮らしを聞くことになる。
そして洪水からムラを護るための知恵を得る。
やがて弥生神の洗礼をうけたダイチは
故郷、ネコジマムラに戻っていく。
ムラに戻ったダイチは、濠と堤を作ることを企画する。
そしてムラはダイチの指導で、弥生ムラへと生まれ変わる。
やがて冬の終わりに、ネコジマムラを再び大洪水か襲う。
しかし巧みに地形を利用した
濠と堤によって見事にムラが護られる。
ダイチは人々から尊敬され
やがて部族のお墓にムラを護った英雄として祀られる。
ダイチは、精霊として長く語り継がれることになる。



図４　「企画書」

果を基に、９つの場面からなるストーリーを作成した(前頁下に掲載)。展示はその場面ごとに行われた。

この展示では、「朝日ムラ」で行われていたとされる「弥生市場のチラシ」や猫島ムラを洪水から救うための「企画書」など、考古学的成果をできるだけ現代の我々が実感しやすいように工夫したのが大きな特徴である(図３・図４)。

埋蔵文化財講演会および埋蔵文化財講座

今年度は表３のように開催した。埋蔵文化財講演会は、明治大学の石川日出志先生にお願いした。先生は、縄文時代から弥生時代への変遷を、最近の成果を交えながら日本列島のみならず韓半島・中国という東アジア的視点から解説される一方で、ここ愛知県の状況に関しても分かりやすくご講演していただけた。

埋蔵文化財講座は「愛知考古学セミナー」として、時代別に６回開催した。骨子は、最近の調査成果を中心に分かりやすく説明するというものであり、その中で展示解説も若干行った。具体的には、すべてのセミナーを通してパソコンによるプレゼンテーションを中心として、映像を主体とした構成をとった。

表３　埋蔵文化財講演会・講座一覧

埋蔵文化財講演会

９月６日	明治大学教授　石川日出志氏 「2500年前の風景」

埋蔵文化財講座(担当は埋文センター職員)

開催日	内容	担当者
8月30日	旧石器・縄文	赤塚・川添・堀木
9月20日	弥生	永井(宏)・蔭山・宮腰
10月 4日	古墳	樋上・早野・赤塚
10月18日	古代	池本・永井(邦)・川添
11月 1日	中世・戦国	小澤・鈴木・川添
11月15日	近世	松田・武部・鬼頭





埋蔵文化財講演会風景

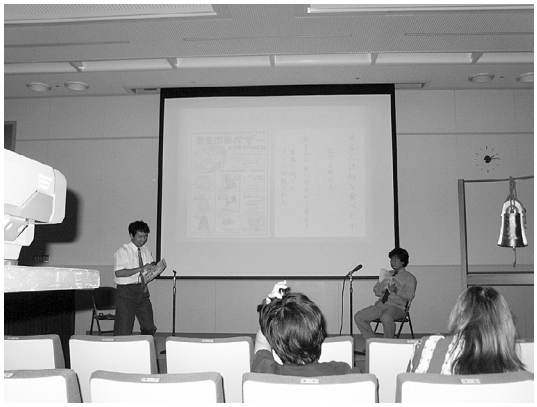
５展示図録について

図録の作成は、陶磁資料館側の項目立てに従い、文字原稿の多くを埋文センター側が受け持った。陶磁資料館側の依頼に基づき、対象とする読者を中学卒業以上の一般の方とするなど、埋文センター側で原稿執筆要項を作成し、それに基づき各職員が分担執筆を行った。最終的な文字原稿は、陶磁資料館側によりさらに推敲が行われた結果のものである。なお、掲載写真・挿図は埋文センターと陶磁資料館との協議により決定した。

６今後の課題と提言

今回、当センターにおいて他機関との共催という形で埋蔵文化財展を行ったのは初めてである。このような体制をとることは、展示をはじめとする普及活動に厚みが出でくる効果が期待でき、今後の埋蔵文化財展を行う上でも新たなる方向性として、有意義であろう。

今回のようなコンセプトをもった展示は、これまでそれほど多く行われていないと思われる。それは、これまで考古学に携わっている人たちがいわば触れなかった部分だからである。それは「歴史の風景」の「風景イラスト」に関して寄せられた反応が如実に物語っている。(1)「風景イラスト」があって分かりやすかった、という意見と、(2)展示に主観を入れるのはよろしくない、というお叱りの意見である。(2)のご意見からは、ある種、考古学の現状が伺えられる。それは我々が調査・研究している事柄は、当時の風景からすると、実にごくごくわずかな部分でしかない、ということである。それを絵(風景イラスト)にするとかなり足りない部分が出てきてしまい、いわば「想定」の部分を充填せざるをえないのである。考古学に携わる者の多くはそこで躊躇し、遺物などいわば「客観的」資料のみを提示し、解釈を観覧者側それぞれに預けてしまう場合が多い。しかし、一般普及事業としてそれで充分なのであろうか。今回の「風景イラスト」は考古学的見地からして問題が多いのは事実であり、埋蔵文化財講座の中でも各講師によって多く指摘していただいている。非常にありがたいことであり、外部の研究者の方からも是非これからもそのような意見が公表されることを期待する。さらに言えば、普及事業としてこのような復元図なりが多数作られれば、一般の人たちもその中から選択して、当時のイメージを持つことが可能となるであろう。そうすれば、これまで埋蔵文化財に関して関心の深くなかった人たちにも、より埋蔵文化財に親しんでいただけるようになるのでは、と考えるのである。(川添和暁)





埋蔵文化財講座風景

(埋蔵文化財展入場者数
愛知県陶磁資料館：7,609 名
高浜市やきものの里かわら美術館：1,375 名)

Ⅴ．発掘調査技術等研修会の記録

平成 15 年度　発掘調査技術等研修会　開催報告

2003年12月４日 (木) と５日 (金) に、愛知県教育委員会と愛知県埋蔵文化財センターの共催で「平成15年度発掘調査技術等研修会」をおこなった。今年度の研修会のねらいは、自然科学を専門にしていない愛知県内の埋蔵文化財担当者が、発掘調査や報告書作成に取り組む際に参考となる例が学べるようにと、テーマとして「年代測定法」を取りあげた。日程は以下の通りで、4日(木)には41名、５日(金)には44名とたいへん多くの参加者が集まった。

12 月４日 (木)
　会場：愛知県埋蔵文化財センター２階研修室
　講義１　火山灰分析・・・・・・・・・・・・
　　古澤　明氏 (古澤地質調査事務所)
　講義２　古地磁気法・・・・・・・・・・・・
　　藤根　久氏 (株式会社パレオ・ラボ)
　講義３　年輪年代法・・・・・・・・・・・・
　　光谷拓実氏 (奈良文化財研究所)
12 月５日 (金)
　会場：名古屋大学年代測定総合研究センター
　講義４　放射性炭素年代測定法・・・・・・
　　中村俊夫氏
　　(名古屋大学年代測定総合研究センター)
　タンデトロン２号機と施設の見学
　名古屋大学博物館の見学

４日 (木) の最初に講義していただいた古澤明氏 (古澤地質調査事務所) からは、考古学において古くから実施されてきている火山灰分析について、原理と有効性に関して最新の研究成果を交えて話があった。藤根　久氏 (株式会社パレオ・ラボ) は、考古学のみならず地球科学的なプレート・テクトニクスも含めて、なぜ磁場の変化から年代が推定できるのか講義いただいた。光谷拓実氏 (奈良文化財研究所) は、氏が作成した長さ十数ｍにもおよぶ年輪年代チャートを前に、長年にわたるデータ集積の経緯を熱く語られた。

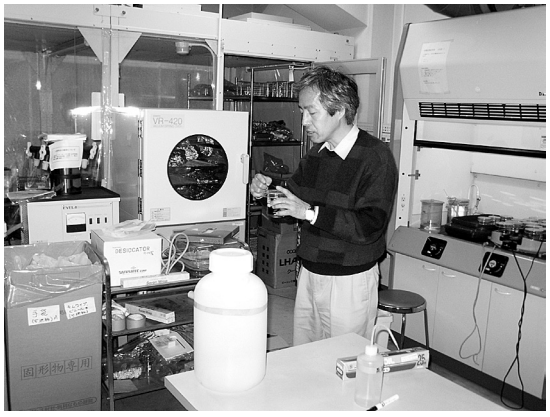
５日 (金) には名古屋大学に会場を移し、中村俊夫氏 (名古屋大学年代測定総合研究センター) から放射性炭素年代測定法について、その原理を図とともにわかりやすく解説いただき、合わせてタンデトロン２号機と施設を見学させていただいた。間近でみるタンデトロン２号機の巨大さに、驚嘆の声があがっていた。午後には2000年４月に開館した名古屋大学博物館を見学し、研修会は終了した。

折しも、2003年５月には国立歴史民俗博物館の研究グループにより放射性炭素年代測定法を用い、弥生時代の始まりについて従来よりも約500年古い数値の発表があった。そのためか、年代測定法に対する関心も高く多くの方々に参加いただき、両日とも会場が満員になるほど盛会であった。

最後に、お忙しい折にも関わらずご講義いただいた講師の先生方をはじめ、受け付けや資料配布などのお手伝いをいただきました当センター調査研究員の皆さまに厚くお礼申し上げます。

（鬼頭　剛）


名古屋大学での風景



試料調整について説明する中村俊夫氏